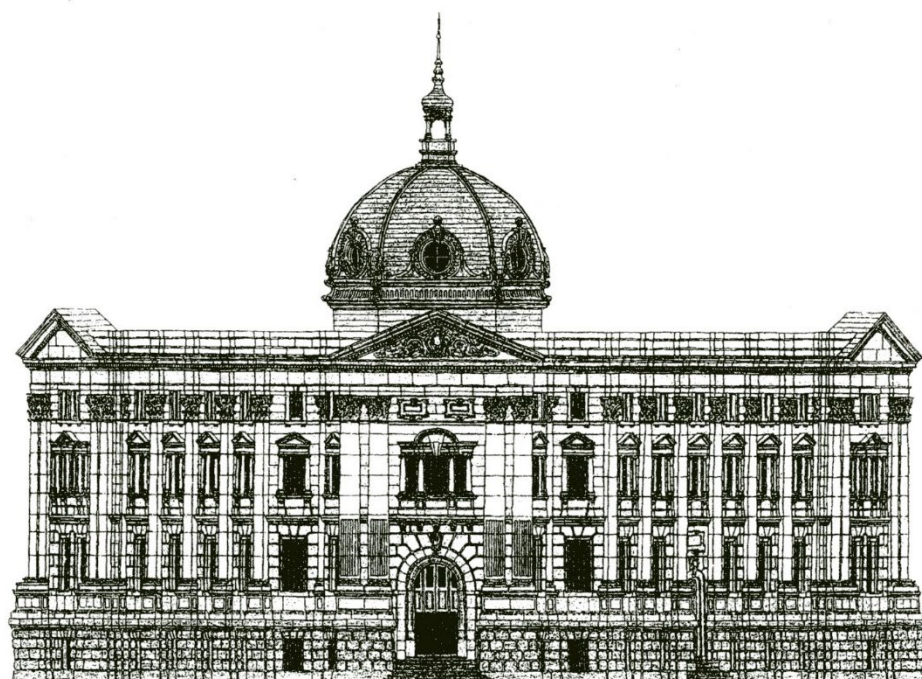


神奈川県立歴史博物館年報

令和7年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

神奈川県立歴史博物館では、「神奈川の文化と歴史」に関する資料の収集、保管並びにこれに関する調査研究、情報提供を行い、県民の学習支援に努めています。

当館の建物は、国指定の重要文化財である旧館部分の建物が竣工して 122 年、博物館としてリニューアル開館して 59 年が経過しています。老朽化等に対応するためエレベーターの更新工事、照明設備の LED 工事、展示ケースガラスへの飛散防止フィルム施工等を実施する必要があるため、令和 7 年 1 月から令和 8 年 10 月まで長期に休館しております。このため、令和 7 年度は、年間を通して館内で展示観覧や施設利用が出来ませんでしたが、工事休館中は、県内各地の外部会場を利用して当館学芸員等による講演会や現地見学会等を開催しました。特に様々な博物館や団体との連携・共催の行事は、例年以上に多く開催し、皆様にながわの文化や歴史について理解を深めていただきました。

小・中・高等学校、特別支援学校との学校連携の一環として、当館学芸員が学校へ赴いて講義を行う「出張講座」も積極的に開催しました。

休館中は、館内で展示事業を実施することができませんでしたが、共催・特別協力等により当館の取組みの情報提供に努めました。

生命の星・地球博物館において当館との共催で特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」を開催しました。

特別協力としては、横浜美術館ではリニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」、横浜市歴史博物館では企画展「君も今日から考古学者！横浜発掘物語 2025 夏休み展」及び「北条幻庵―横浜・小机城と関東の戦国―」、東京国立近代美術館では企画展「下村観山展」が開催され、それぞれ展示開催の際には、準備をはじめ講演会講師を当館学芸員が務めるなど連携・協力しました。

博物館事業の充実を図るため、外部の研究者の参画を得て実施する総合研究や、学芸員それぞれの専門分野に即した研究テーマを設定して各種調査及び研究を着実に進めました。その研究成果は、各種講座や研究報告書「神奈川県立博物館研究報告-人文科学-」として報告しています。また、今後の特別展や常設展等の展示事業に反映することとしています。

さらに、再開館後に再び展示解説などについてご協力いただくボランティアの方々への学習支援として、フォローアップ研修をより多く行いました。

当館は、地域における社会教育と文化振興を担う施設として、工事終了後の再開館に向け準備を進め、今後も皆様に必要とされる存在であり続けるよう、その価値と魅力を分かち合える博物館活動に努めてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目 次

はじめに

1 沿革・理念

- (1) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念・・・・ 4
- (3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針・5
- (4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2 管理運営

- (1) 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - ア 広報実績
 - イ ホームページアクセス件数
 - ウ SNS 投稿数・フォロワー数
- (5) 事業評価・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (6) 施設概要・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 館外施設
 - エ 外部協力
 - オ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの・・ 14
 - ア 総合研究
 - イ 連携研究
 - ウ 個別研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業
によるもの・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) その他外部研究資金によるもの・・ 22
- (4) 個人研究活動・・・・・・・・・・・・ 23
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料・・・・・・・・・・・・・・ 37
- (2) 歴史資料・・・・・・・・・・・・・・ 37
- (3) 美術資料・・・・・・・・・・・・・・ 39
- (4) 民俗資料・・・・・・・・・・・・・・ 46
- (5) 写真資料・・・・・・・・・・・・・・ 47
- (6) 資料の燻蒸等・・・・・・・・・・・・ 47
- (7) その他資料の利用・・・・・・・・・・ 47
 - ア 図書
 - イ 写真
 - ウ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援・他機関との連携

- (1) 総合テーマ展示(常設展)・・・・・・ 50
- (2) 特別展・・・・・・・・・・・・・・ 50
- (3) コレクション展・・・・・・・・・・・・ 50
- (4) その他の展示・・・・・・・・・・・・ 50
- (5) 教育普及・学習支援事業・・・・・・ 51
 - ア 県立社会教育施設公開講座
 - イ ミュージアムトーク「今月の逸品」
 - ウ その他の行事
 - エ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - オ 学校連携事業の状況
- (6) ミュージアムライブラリー・・・・・・ 63
- (7) 普及印刷物・・・・・・・・・・・・・・ 64
 - ア 図録等
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
- (8) ボランティアの活動・・・・・・・・・・ 64
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 専門研修
 - ウ その他の研修
- (9) 博物館実習生の受入れ・・・・・・・・ 66
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習

6 資料

- (1) 条例・規則・・・・・・・・・・・・・・ 67
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する
規則
- (2) 利用案内・・・・・・・・・・・・・・ 71

1 沿革・理念

(1) 沿革

- 昭和 38 年 6 月 神奈川県教育庁に博物館準備事務室を設置
- 昭和 41 年 11 月 神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置
神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
- 昭和 42 年 3 月 神奈川県立博物館開館（20 日）
- 4 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を設置
（委員 20 名）
- 6 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を
置く
- 昭和 43 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の
3 課を置く
- 5 月 登録博物館に認可（1 日）
- 昭和 44 年 3 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
- 7 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課
に名称変更
- 昭和 47 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調
整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
- 昭和 49 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
- 昭和 52 年 5 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
- 昭和 53 年 9 月 文部省学術研究機関の指定を受ける
- 昭和 55 年 2 月 入館者数 100 万人達成
- 昭和 62 年 4 月 第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再
編整備事業策定
- 昭和 63 年 12 月 神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－
自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
- 平成 2 年 3 月 人文系博物館の整備計画・展示計画策定
- 平成 3 年 3 月 博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
- 平成 4 年 3 月 展示基本設計
- 平成 5 年 3 月 改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
- 4 月 県立博物館休館（～7 年 3 月）
- 10 月 改修工事及び展示工事開始
- 平成 6 年 11 月 改修工事終了
- 平成 7 年 1 月 神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物
館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画
普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
- 3 月 展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始
神奈川県立歴史博物館開館（18 日）
- 6 月 国の史跡に指定される
- 平成 9 年 7 月 博物館ボランティアが活動を開始
- 平成 11 年 2 月 金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家
袖判下文が県の重要文化財に指定される
神奈川の職人の道具（17 職種 1,982 点）が県の有形民俗文化財に指定される
- 4 月 重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される（現在まで更新中）

- 平成 13 年 1 月 三浦市間口洞窟遺跡出土品 (450 点) が県の重要文化財に指定される
- 3 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
- 平成 18 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
- 平成 19 年 11 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産 (横浜港周辺の関連建築物群) に認定される
- 平成 21 年 8 月 入館者数 200 万人達成
- 平成 28 年 6 月 空調設備等改修工事のため休館 (～平成 30 年 4 月)
- 9 月 事務室を宇徳ビル (横浜市中区弁天通 6 丁目) 6 階に移転
- 10 月 空調設備等改修工事開始
- 平成 29 年 12 月 空調設備等改修工事終了
- 平成 30 年 4 月 空調設備等改修工事終了に伴い、博物館業務を再開
- 8 月 入館者 300 万人達成
- 令和 6 年 2 月 改正博物館法第 14 条の規定に基づき、博物館登録 (6 日)
- 3 月 五姓田義松作品 (五姓田義松旧蔵作品群を含む) (643 点 附史料 72 点) が県の重要文化財に指定される
- 令和 7 年 1 月 設備改修工事等 (エレベーター更新工事、LED 照明設備改修工事等) のため休館 (～令和 8 年 9 月 (予定))

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行われ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 検討・提案の経緯

- (ア) 昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言―自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方―」(以下「提言」という。)
- (イ) 平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」(以下「整備計画」という。)
- (ウ) 平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」(以下「概要」という。)

イ 活動理念・テーマ

- (ア) 「提言」における活動理念・テーマ

a 人文系博物館の「意義」(「提言」を要約、抜粋)

- (a) 文化の視点からの未来の探求
- (b) 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- (c) 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
- (d) 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- (e) 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- (f) 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

b 「基本テーマ」等の設定

- (a) 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

(b) サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」
空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に
立って2つのサブテーマが設定された。

(c) 展開の視点
これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるた
め、次のような展開の視点が設けられた。

〔継 承〕 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる

〔交 流〕 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる

〔変 容〕 文化の変容をダイナミックにとらえる

〔風 土〕 文化の特色を地域風土を通してとらえる

(イ) 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられた
が、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・
指針として継承されることとなった。

(ウ) 「概要」における活動理念・テーマ

平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総
合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とす
ることが示された。

(3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針（令和5年12月策定）

神奈川県立歴史博物館は、自然科学及び人文科学に関する総合博物館であった県立博物館（1967年（昭和
42年）3月開館）を前身とし、1995年（平成7年）3月に人文系の博物館として再編整備し開館した。
かながわの文化と歴史を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、かながわの先史・古代から現代に至
るまでの歴史・美術・考古・民俗に関する貴重な資料を収集し、適切に保存・活用して未来へつなぐとと
もに、専門性を発揮した調査研究活動を着実に進め、当館の特色を生かした魅力ある展示や講座などによ
りその成果を公開し、県民の生涯にわたる学びを支援していく。

また、すべての人びとに開かれた社会教育施設として、資料の価値やそれに関わる人の活動などの情報が
広く共有されるよう、公開と発信に取り組むとともに、開館以来蓄積してきた活動や資源を基盤として、
他博物館や関係機関、地域のさまざまな団体等と相互に連携して地域の活力の向上に取り組み、多様化・
高度化する博物館の役割を果たしていく。

こうした活動の基盤として、1904年（明治37年）に竣工した歴史的建造物である当館建物（国指定重要
文化財「旧横浜正金銀行本店本館」）を適切に保存・活用し未来へ継承することはもとより、運営を支え
る人材の確保・育成と財源の確保に努め、持続可能な博物館活動に取り組んでいく。

(4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組（令和6年3月策定）

ア 期間 令和6年度から令和10年度の5年間

イ 使命

神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行
い、県民の学習活動を支援すること。また、博物館や学校をはじめ多様な主体の団体と相互に連携を図り
ながら協力し、地域の活力の向上に取り組むこと。

ウ 目標

使命を実現するため、設定した項目に取り組み、計画期間の令和 10 年度には、「神奈川の歴史と文化」を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、県民や利用者が「かながわ」への理解を深め、「かながわ」に魅力を感じ、「かながわ」の新たな価値を見出すことができる博物館活動を積極的に進めていくことを目指していく。

エ 取組項目

文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」で示された役割・機能を柱として設定

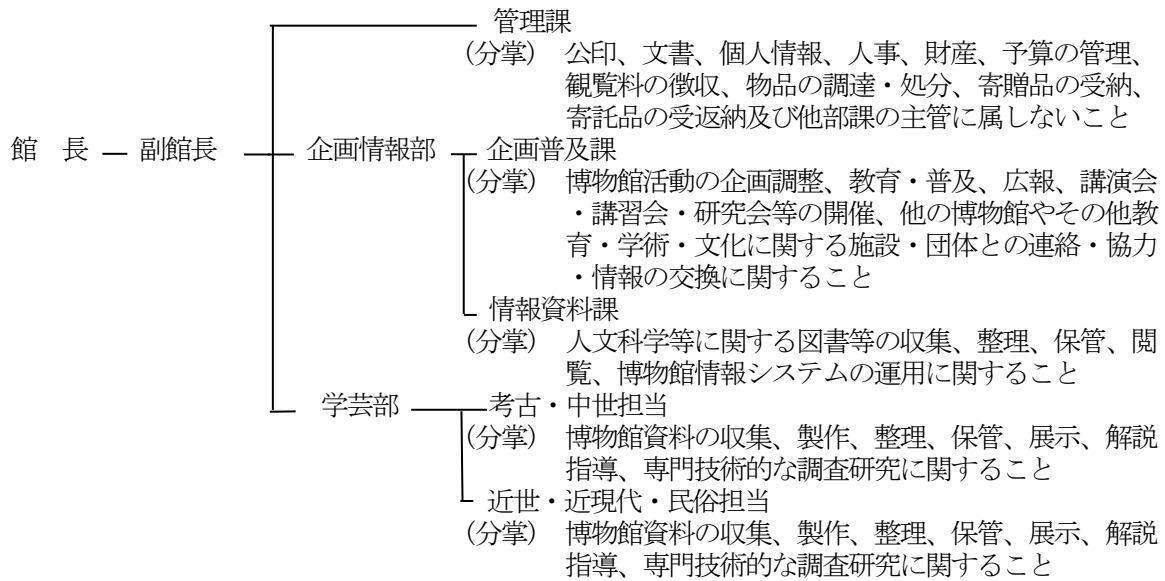
- (ア) 資料の収集・保管・蓄積と文化の継承（守り、受け継ぐ）
- (イ) 資料の展示、情報の発信と文化の共有（わかちあう）
- (ウ) 多世代への学びの提供（育む）
- (エ) 社会や地域の課題への対応（つなぐ、向き合う）
- (オ) 専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上（営む）
- (カ) その他 利用の促進

2 管理運営

(1) 組織

(令和7年4月1日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長	望月 一樹	非常勤資料整理員	梶谷 陽子
副館長兼管理課長	江尻 睦	非常勤事務補助員	三瓶 裕子
管理課 副主幹	秋元 潤子	非常勤事務補助員	神津 由紀子
主査	持丸 幸広	非常勤事務補助員	亀井 昌子
主査	大貫 宗大	非常勤図書整理員	深野 亜希子
主査	佐藤 由梨江	非常勤図書整理員	島 晴美
主事	上手 基弘	非常勤図書整理員	森 由紀
非常勤事務補助員	竹内 廣一	学芸部長	丹治 雄一
非常勤事務補助員	西村 純子	非常勤事務補助員	新井 実
非常勤事務補助員	森 久利子	非常勤事務補助員	杉山 誠
非常勤事務補助員	佐々木 誠	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
非常勤自動車運転員	大塚 清志	非常勤資料整理員	椎橋 郁実
企画情報部長	荒 裕絵	(考古・中世担当)	
企画普及課長	桑山 童奈	主任学芸員	神野 祐太
企画普及課 主任主事	廣瀬 啓	学芸員	橋本 遼太
主事	久保田 亜紀	学芸員	渡邊 浩貴
学芸員(兼務)	鈴木 愛乃	学芸員	梯 弘人
主事(専門員)	若杉 恵子	学芸員	鈴木 愛乃
非常勤博物館学習指導員	柳原 正広	学芸員	佐藤 兼理
非常勤事務補助員	松井 礼子	任期付学芸員	樋口 美咲
非常勤事務補助員	野島 愛子	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤資料整理員	渡邊 実華子	主任学芸員	嶋村 元宏
非常勤学芸員	市野 悦子	主任学芸員	角田 拓朗
非常勤学芸員	金子 あゆみ	主任学芸員	新井 裕美
非常勤学芸員	宮崎 未来	学芸員	武田 周一郎
情報資料課長	高橋 裕子	学芸員	寺西 明子
情報資料課 主事	臼井 裕太郎	非常勤学芸員	根本 佐智子
主任専門員	小松 晶子	非常勤学芸員	三浦 麻緒
業務専門員	能勢 悦子	非常勤学芸員	山口 希
非常勤司書	鈴木 隆雄	非常勤学芸員	小川 咲良
非常勤写真職	荒井 孝則	非常勤学芸員	大藁 佳純
非常勤資料整理員	檜皮 千穂		

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
財産貸付収入	37	授業目的公衆送信補償金
公有財産売払収入	317	ぐるっとパス精算金
教育事業収入	257	図録販売収入
教育受講料収入	209	県立社会教育施設公開講座受講料
教育立替収入	30	工事に伴う光熱水費
雑入	2,750	科学研究費補助金間接経費等
合 計	3,600	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
教育施設維持修繕費	586	施設・設備の修繕
教育施設各所管繕費	1,100	
県立社会教育施設公開講座事業費	144	講座の開催
維持運営費	73,988	維持管理(電気、ガソリン代を除く)・事業運営
博物館事業費	10,275	展示事業、調査研究、資料整備、学習支援等
施設整備費	55,732	
情報システム整備費	66,581	システム運用、データ入力等
合 計	208,406	

(3) 入館者状況

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は入館者なし

(4) 広報

休館中のおもな活動である学習支援活動を中心に、当館の認知度向上を図るべく広報活動を実施した。

ア 広報実績

令和7年度の広報実績は次のとおり(館のPR、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	23	2	4	33	2	2	113	179

イ ホームページアクセス件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	259,752	607,989	365,079	259,415	383,411	304,324	393,136	359,468	370,842	329,718	295,813	345,652	4,274,599

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	850	959	966	1,014	818	848	899	1,002	992	864	732	827	10,771
デジタル アーカイブ	7,589	9,562	7,158	6,571	6,642	20,822	6,849	7,892	8,970	9,124	8,612	6,288	106,079

おうちでか ながわけん ぱく	4,890	5,389	5,891	7,055	6,283	6,015	5,747	5,685	5,998	6,364	5,411	5,480	70,208
----------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

ウ SNS 投稿数・フォロワー数

(ア) X (旧 Twitter) 投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	17	17	17	17	28	14	16	12	20	17	19	19	213
フォロワー数	13,374	13,243	13,307	13,345	13,358	13,340	13,294	12,889	12,837	12,909	12,937	12,951	—

(イ) Instagram 投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	12	10	14	15	12	9	12	10	14	13	17	17	155
フォロワー数	290	309	328	346	367	384	401	414	431	473	509	534	—

(5) 事業評価

平成 30 年度から、県立社会教育施設 6 館（県立図書館、県立川崎図書館、金沢文庫、近代美術館、生命の星・地球博物館、当館）において、事業評価を実施することとし、全館共通の評価項目による「社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）」（以下、全館共通評価）による事業評価を毎年実施し、館のホームページで公開している。また、令和元年度からは、全館共通評価に加えて、「神奈川県立歴史博物館評価書（社会教育施設個別評価）」（個別評価）を作成し、当館が独自に設定した評価指標による「神奈川県立歴史博物館評価書（社会教育施設個別評価）」による事業評価を毎年実施している。

令和 7 年度における事業評価の概要は次のとおりである。

・全館共通項目の評価結果

評価項目 16 項目中、達成（目標値以上）は、14 項目

・個別評価項目の評価結果

評価項目 35 項目中、達成（定量：目標値以上、定性：チェックリストクリア 80%以上）は、21 項目

(6) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積	4,160.82 m ²
構造	石・煉瓦造り（一部鉄骨鉄筋コンクリート造り）地上 3 階・地下 1 階
延床面積	10,565.47 m ²
部門別面積	展示部門＝約 3,896 m ² 、学習支援部門＝約 386 m ² 、収蔵部門＝約 619 m ² 研究部門＝約 1,306 m ² 、サービス部門＝約 438 m ² 、管理部門＝約 1,251 m ² その他共用部分＝約 2,670 m ²

(イ) 建物の特徴

旧館部分	旧横浜正金銀行本店本館(明治 37 年(1904)竣工、設計：妻木頼黄) ネオ・バロック様式
新館部分	神奈川県立博物館として新築(昭和 42 年(1967))
指定状況	国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和 44 年(1969)3 月 12 日指定) 国指定史跡(平成 7 年(1995)6 月 27 日指定)

(ウ) 施設の状況

1 階：【展示室、学習支援関係諸室】

特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室等

- 2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(テーマ 3、4、5〔近世、近代、現代・民俗〕)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等
- 3 階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(テーマ 1、2〔古代、中世〕)
学芸部、資料整理室、保存修復処置室/印刷室、作業室 等
- 地下1 階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、写場、写真整理室、その他機械室 等

イ 館内施設

1 階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

当館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) 喫茶室(喫茶ともしび)

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。喫茶の他、軽食を提供し、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、障がい者の就業の場ともなっている。

(ウ) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として設置している。図書、情報システム端末(デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

ウ 館外施設

昭和 42 年(1967)の開館以来継続的に収集してきた資料により、館内の収蔵庫の狭隘化が進行してきたため、現在、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課が所管する「文化遺産課収蔵センター」(旧神奈川県立野庭高等学校校舎)の一角を「野庭収蔵庫」(旧体育館、面積 3, 100. 84 m²)として占有し、民俗資料等の一部を収蔵している。

エ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和 29 年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数 194 人(令和 7 年 4 月 1 日現在)。

事務局長	副館長	江尻 睦
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
事務局員	企画普及課長	桑山 童奈
〃	学芸員	佐藤 兼理
〃	学芸員	鈴木 愛乃
〃	主事	上手 基弘
〃	非常勤事務補助員	新井 実

(イ) 神奈川県博物館協会

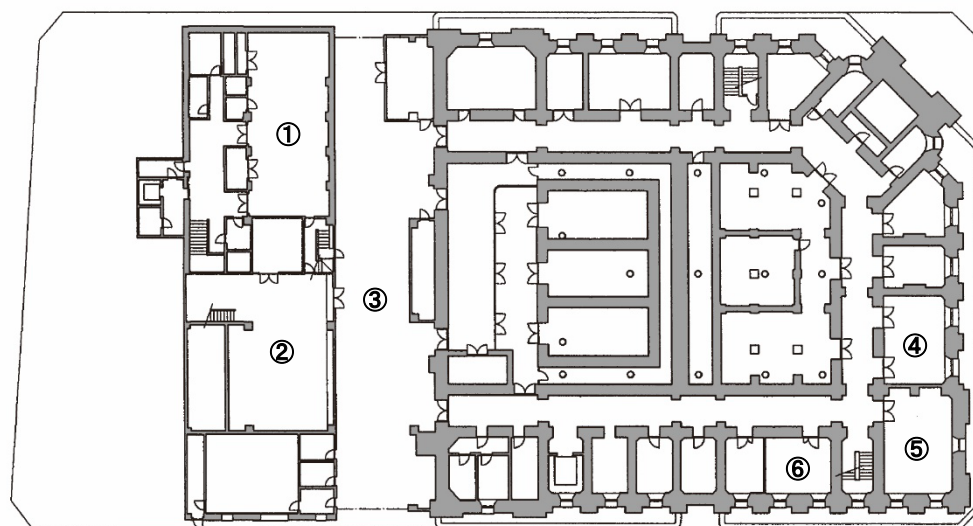
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のPR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数101館(令和7年4月1日現在)。

会長	館長	望月 一樹
事務局長	副館長	江尻 睦
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
機能研究部会幹事	学芸員	武田 周一郎
事務局員(会計)	非常勤事務補助員	竹内 廣一
事務局員	非常勤事務補助員	杉山 誠

オ 平面図

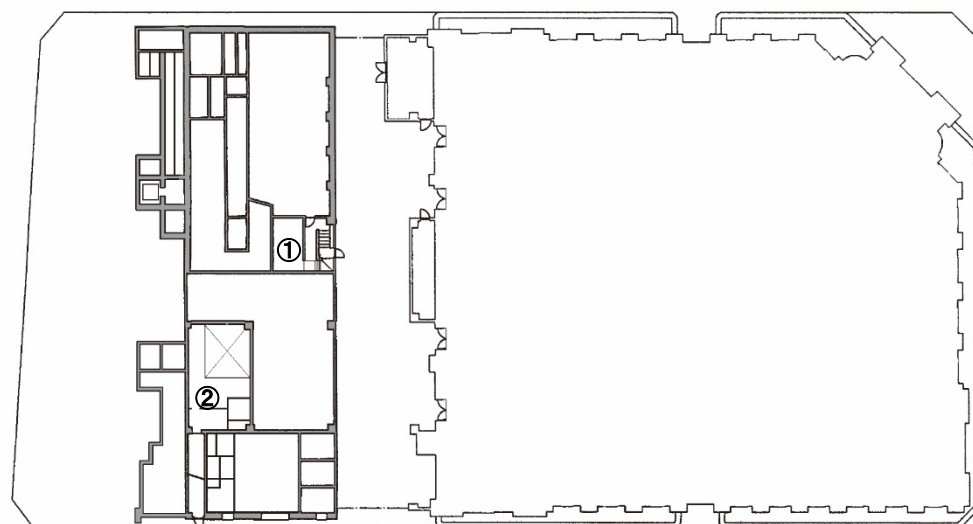
地階

- ①講堂
- ②空調機械室
- ③サービスヤード
- ④展示準備室
- ⑤写場
- ⑥写真整理室



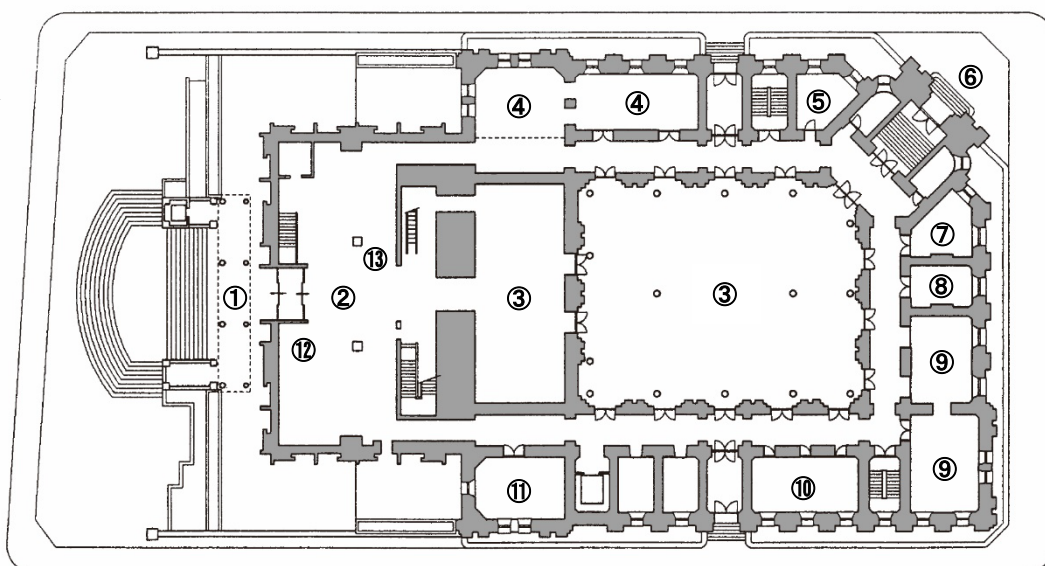
中1階

- ①映写室
- ②中央監視室



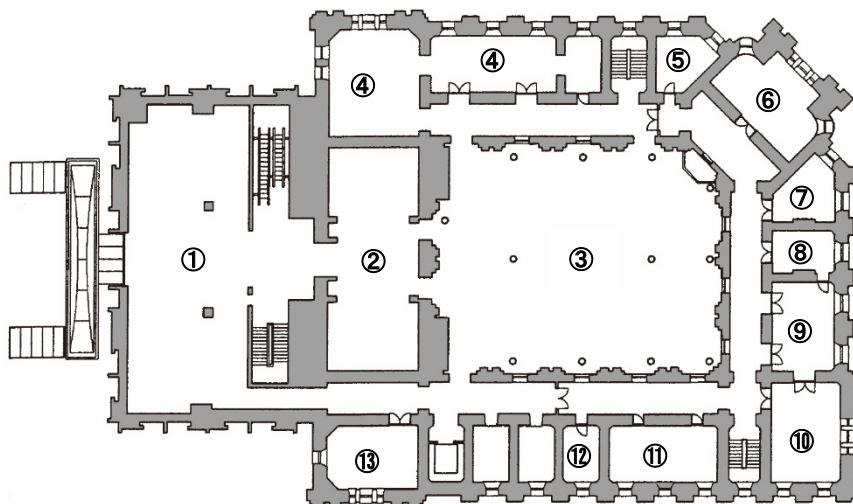
1階

- ①正面玄関
- ②エントランスホール
- ③特別展示室
- ④コレクション展示室
- ⑤ボランティアルーム
- ⑥馬車道玄関
- ⑦情報処理室
- ⑧書庫
- ⑨ミュージアム
ライブラリー
- ⑩会議室
- ⑪喫茶室
- ⑫ミュージアム
ショップ
- ⑬総合案内



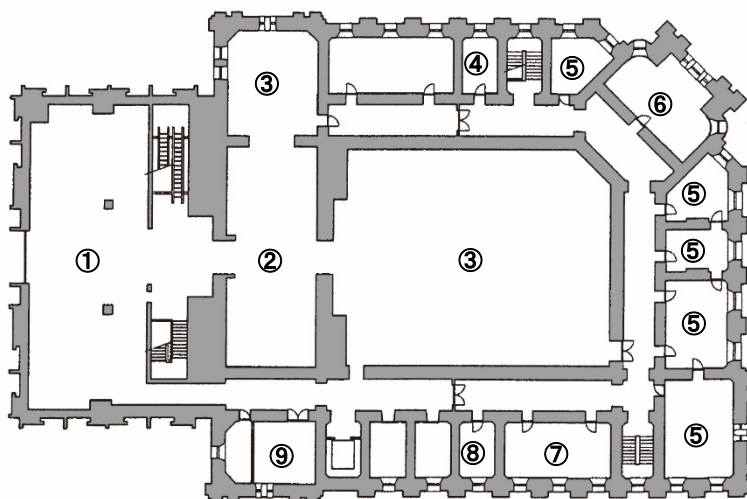
2階

- ①総合テーマ展示室 テーマ3
- ②総合テーマ展示室 テーマ4
- ③総合テーマ展示室 テーマ4/5
- ④総合テーマ展示室 テーマ5
- ⑤図書整理室
- ⑥書庫
- ⑦電話交換室
- ⑧館長室
- ⑨応接室
- ⑩管理課室
- ⑪企画情報部室
- ⑫第2 応接室
- ⑬空調機械室



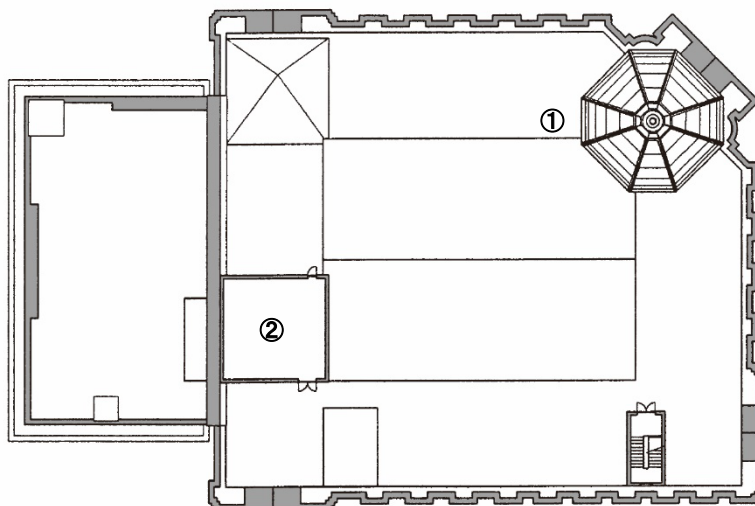
3階

- ①総合テーマ展示室 テーマ1
- ②総合テーマ展示室 テーマ1/2
- ③総合テーマ展示室 テーマ2
- ④畳敷作業室
- ⑤資料整理室
- ⑥保存修復処置室／印刷室
- ⑦学芸部室
- ⑧共同作業室
- ⑨空調機械室



屋上

- ①ドーム
- ②空調機械室



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

(ア) 研究課題：箱根・伊豆・三島文化圏と鎌倉幕府成立の学際的研究

—箱根山麓・狩野川流域をめぐる文化交流と東国武士本拠を事例に—

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究分担者：伊豆の国市教育委員会 池谷 初恵 氏、愛川町郷土資料館 岩田 慎平 氏、藤沢市教育委員会 宇都 洋平 氏、鎌倉市教育委員会 押木 弘己 氏、沼津市教育委員会 木村 聡 氏、かながわ考古学財団 高橋 香 氏、鎌倉考古学研究所 松吉 大樹 氏、株式会社博通 松吉 里永子 氏

研究期間：令和6～8年度

概要：狩野川下流域に立地する駿河国八条院領大岡牧（荘）および同国香貫郷は、源頼朝の挙兵に際して重要な軍事基盤となった地域である。当該地には、大岡牧（荘）に北条氏と血縁関係にある牧一族が拠点を置き、香貫郷には頼朝亡父義朝の股肱の臣である鎌田正清の拠点も存在しており、これらの地域基盤の実相を明らかにする作業は畢竟、鎌倉幕府成立・形成を支えた地域諸勢力の解明へと結実しよう。本年度では、天神洞遺跡（香貫山麓）出土の尾張産瓦を含む中世瓦の整理・分類・検討を実施し、瓦全点の撮影を完了した。関連する八事裏山窯などの尾張産瓦の中世瓦も実見した。また大岡牧（荘）・香貫郷の水利灌漑調査を完了し現況用水の復原を行った。

(イ) 研究課題：南足柄市における矢倉沢往還関連資料の基礎的研究—田代家文書を中心として—

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究分担者：非常勤学芸員 根本 佐智子、南足柄市郷土資料館非常勤職員 飯岡 葉子 氏

研究期間：令和5～9年度

(ウ) 研究課題：博学協働による博物館資料の教材化

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究分担者：学芸部長 丹治 雄一、学芸員 渡邊 浩貴、学芸員 梯 弘人、学芸員 寺西 明子、学芸員 佐藤 兼理、任期付学芸員 樋口 美咲、県立総合産業高校 高橋 俊介 氏、県立足柄高校 桐生 海正 氏、鎌倉学園高校 風間 洋 氏 他神奈川県高等学校社会科部会日本史研究推進委員

研究協力者：企画普及課長 桑山 童奈、非常勤資料整理員 椎橋 郁実

※研究会はオープン形式とし、随時参加可能。

研究期間：令和6～8年度

概要：博物館資料について専門知識を有する学芸員と授業を実際に行う教員と、異なる立場から博物館資料を検討することで、実際に授業で利用可能な教材及び授業案を作成し、博学協働の実践的事例を蓄積することを目的としている。本年度は、各学芸員が担当する博物館資料を紹介し、それらの資料をいかに教員が教材化できるかという観点で議論した。その結果、本年度は11本の授業案について実践することができた。

イ 連携研究

(ア) 研究課題：多摩川流域における水と人の生活文化史

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究分担者：学芸員 新井 裕美、非常勤学芸員 根本 佐智子、非常勤学芸員 三浦 麻緒

研究期間：令和7～8年度

(イ) 研究課題：大井町最明寺文化財総合調査

研究代表者：主任学芸員 神野 祐太

研究分担者：学芸員 渡邊 浩貴、学芸員 梯 弘人、学芸員 鈴木 愛乃、任期付学芸員 樋口 美咲、非常勤写真職 荒井 孝則

研究期間：令和7～9年度

概要：令和7年度は、1回の調査を実施した。善光寺堂の2件4軀の仏像を調査・撮影を行った。平成8年に刊行された『大井の仏像』では紹介されておらず、これまで未調査の仏像である。令和8年度には引き続き彫刻調査を実施しつつ、絵画作品の調査も進めていきたい。

ウ 個別研究

(ア) 研究課題：旧横浜正金銀行本店本館の保存と活用に関する調査研究

研究代表者：学芸部長 丹治雄一

研究期間：令和7～9年度

(イ) 研究課題：錦絵に描かれたかながわ

研究代表者：企画普及課長 桑山 童奈

研究期間：令和6～8年度

(ウ) 研究課題：農耕開始期における住まいの研究 ～関東を中心に～

研究代表者：学芸員 佐藤 兼理

研究期間：令和6～7年度

(エ) 研究課題：鎌倉幕府の文化形成と東山道・東海道地域の交流に関する歴史学的研究

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究期間：令和5～8年度

(オ) 研究課題：『談柄』に見る戦国大名北条氏と関東禅林の関係

研究代表者：学芸員 梯 弘人

研究期間：令和7～9年度

(カ) 研究課題：足柄地方の毘沙門天像に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 神野 祐太

研究期間：令和5～7年度

概要：令和5、6年度に引き続き足柄地方の仏像について調査研究を行った。

(キ) 研究課題：近代横浜における洋家具制作の基礎的研究

研究代表者：学芸員 鈴木 愛乃

研究期間：令和6～8年度

(ク) 研究課題：近世三浦郡城ヶ島村の基礎的研究

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究期間：令和7～9年度

(ケ) 研究課題：当館所蔵『浩然随筆』の基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和4～7年度

概要：『浩然随筆』は仙台藩の知識人のひとりである伊藤浩然が、ラクスマン来航前後からの海外情報を主に収集、まとめたものである。本研究では、いかなる情報を収集していたのかを分析し、本来幕府内で秘匿されるべき情報をも入手していたことなどを明らかにした。いかなる経路により入手したかといった点については、今後の課題とした。

- (㇔) 研 究 課 題：当館所蔵青本文庫の公開・活用に向けての基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗
研 究 期 間：令和5～7年度
概 要：故青木茂氏の蔵書を整理し、当館所蔵品とし、最終的に調査閲覧に寄与する方法を模索した。現状としては、棒目録を作成するだけでも作業が膨大に発生しており、さらに中長期的な視野でその利活用の簡便性を高めていきたい。
- (㇕) 研 究 課 題：横浜歴史GISの構築
研究代表者：学芸員 武田 周一郎
研 究 期 間：令和6～8年度
- (㇖) 研 究 課 題：神奈川県内の降雨祈願の山について
研究代表者：主任学芸員 新井 裕美
研 究 期 間：令和6～8年度

エ 調査研究成果報告会

開催日時：5月9日（金）

内 容：総合研究および個別研究の成果などについて報告した。（令和6年度分）

《口頭報告》

(㇗) 連携研究

発表者：企画普及課長 桑山 童奈

テーマ：「かながわの浮世絵」の総合的研究―東海道揃物と江の島―

概 要：本研究では当館丹波コレクションの特色の一つである神奈川県域にあった東海道の宿駅9宿と金沢八景、江の島、大山、箱根の温泉などの名所を取り上げた錦絵について、丹波コレクションに含まれない作例の情報を収集し、“かながわ”の各地が錦絵にいかにかに描かれたかを整理し、名所としての各地の特色を探った。

(㇘) 個別研究

a 発表者：主任学芸員 神野 祐太

テーマ：古代相模国の仏像製作の状況―南足柄市朝日観音堂毘沙門天像を中心に―

概 要：2023年度特別展「足柄の仏像」に出展した南足柄市朝日観音堂の毘沙門天像3軀（神奈川県指定重要文化財）について考察し、文字史料がほとんどなく具体的な状況がほとんどわからない古代相模国の仏像製作について検討した。

b 発表者：学芸員 梯 弘人

テーマ：戦国大名北条氏と鎌倉五山寺院 ―関係構築とその推移―

概 要：戦国大名北条氏と鎌倉五山寺院との関係構築について報告を行った。これまで北条氏は菩提寺の早雲寺を媒介として、鎌倉五山の建長寺と結びつくと指摘されてきた。北条氏三代氏康は建長寺僧のつてを頼り、円覚寺派の僧、奇文禅才の鎌倉在寺を依頼している。その後、奇文の鎌倉在寺を契機として、北条氏は円覚寺との関係を深めていく様子が見られた。

c 発表者：学芸員 寺西 明子

テーマ：鎌倉絵図と当館所蔵「相州鎌倉之図」

概 要：近世歴史担当は、常設展テーマ3「近世の街道と庶民文化」において庶民信仰と名所めぐりについて紹介するためテーマに沿った資料収集を行っており、現在30点弱の鎌倉絵図を所蔵するほか、平成29年度には鎌倉絵図の関連資料として「相州鎌倉之図」を新規購入した。令和5、6年度の個別研究において既存資料の整理と、新規資料の再評価を目的とした研究を行った。鎌倉絵図については刊行年推定を試み、「相州鎌倉之図」については兵学

者山鹿素行の成した積徳堂文庫に属する地域図「鎌倉図」2点のうちの1点であることを確認した。

d 発表者：学芸部長 丹治 雄一

テーマ：旧横浜正金銀行本店本館の保存と活用に関する調査研究

概要：当館建物である旧横浜正金銀行本店本館に関する約400点の関係資料の再検討を行い、エレベーター更新工事やコレクション展「本店本館創建120周年記念 横浜正金銀行」での活用につなげることができたほか、躯体や関東大震災復旧工事（大正の改修工事）時の内装の調査により、新たな発見や今後の検討の方向性を見い出すことができた。

e 発表者：学芸員 武田 周一郎

テーマ：横浜歴史GISの構築

概要：博物館に収蔵されている地図資料を通じて都市横浜の時空間情報を発信するための取組として、GISソフトのQGISを用いた試作版のウェブサイトを紹介した。関内地区とその周辺を対象として、幕末期・明治期・大正期の地図資料を現代の地図に重ね合わせたうえで、施設等のポイントを表示したウェブサイトを作成し、今後の課題を示した。

(ウ) 自由論題

a 発表者：学芸員 佐藤 兼理

テーマ：間口洞穴発掘調査報告

概要：2025年2月に実施した間口洞穴遺跡の発掘調査の概報を行った。今回の発掘調査は本調査前の予備調査（試掘）であり、前庭部の地層の堆積状況の確認を主な目的とした。弥生時代の層は検出されなかったが、層位の構成および中世層の厚さを確認できた点、洞穴において合わせ口かわらけを検出できた点は重要な成果である。

b 発表者：非常勤学芸員 山口 希

テーマ：杉浦非水と明治時代の雑誌図案「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」展示作品を中心に

概要：本報告では、杉浦非水（1876～1967）が図案家として制作活動を開始して10年目にあたる1912年に開催した個展「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」に注目し、その展示資料である、非水が手がけた雑誌に関する図案の詳細を明らかにした。

《紙上報告》

(ア) 自由論題

a 発表者：学芸員 渡邊 浩貴

テーマ：鎌倉御家人の寺院造りとその機能

概要：本報告は、鎌倉御家人が造営した氏寺が一体如何なる機能を具備し、領主支配を展開する地域社会に対して向き合っていたのかを検討するものである。具体的には相模国三浦一族（三浦惣領家・和田氏・佐原氏）による造像活動と寺院伽藍、安芸国小早川氏による造寺と迎講の開催および言説形成を事例に、氏寺の機能を①象徴性、②文化力、③神話創造の三点から整理した。なお本報告は、神奈川県立歴史博物館の令和6年度秋季特別展「仮面絢爛」の調査準備過程で得た知見に基づく。

b 発表者：学芸員 鈴木 愛乃

テーマ：近代横浜における洋家具制作の基礎的研究—人名録からみる洋家具制作の変遷—

概要：幕末から明治初期に横浜で盛んに制作されるようになった洋家具について、当時発行された人名録を元に、横浜の洋家具制作・販売の推移を考察した。洋家具に関する商店、製造業者に関する記述を整理し、明治期における元町を中心とした洋家具商の発展を概観した。さらに大正期の人名録から多く見られるようになる市内各所の「彫刻家具」商と、元町の洋家具商の記述の比較を行い、前者は国外、後者は国内需要が多い傾向にあり、制作・販売の方向性が異なることを指摘した。

- c 発表者：任期付学芸員 樋口 美咲
テーマ：東密諸流の大勝金剛像の図像研究
概要：大勝金剛は敬愛や息災、兵難を避けることが期待されたほとけで、『瑜祇経』のみに説かれ、その姿は一面十二臂であるという。この尊格に関する作品研究はほとんどない。現存する画像作例や白描図像を比較すると、十二本の手の形や持物を執る手に差異が認められた。そこでとりわけ特徴的な図像をもつ京都・悲田院所蔵大勝金剛曼荼羅や当館所蔵大勝金剛像について実見調査を行い、これらの制作背景に、大勝金剛の尊格理解と、東密での『瑜祇経』の解釈とその相伝が大きく影響した可能性を指摘した。
- d 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子
テーマ：『松平造酒助江戸在勤日記』に見る庄内との交流―食べ物を中心に―
概要：本稿では、『日記』『造酒助書簡』にみる食べ物に関する記載に注目し、庄内の家族から送られる食材について考えた。造酒助には国元から度々食材が届き、届いた食材は藩士間で贈答された。また国元の食材を振舞う会食が盛んに行われている。これは加賀藩の事例でも見られ、他の江戸藩邸内にもあった可能性が高い。これにより、個人レベルでの物資輸送が可能であったことを示している。
- e 発表者：主任学芸員 嶋村 元宏
テーマ：19 世紀中葉における日本観の形成とその伝播について
概要：科学研究費に採択された 2021 年度から昨年度までは、「開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に」をテーマとして進めてきた。この研究は、教科書にもよく取り上げられる《ペリー提督横浜上陸》など、ペリー来航時の様子を随行画家ハイネが描いた石版画を分析したもので、その成果は、昨年度開催した特別展「かながわへのまなざし」及びその展覧会図録並びに、当館の研究報告などで公表した。ここでは、『神奈川県立歴史博物館研究報告―人文科学―』第 51 号に掲載した「19 世紀における日本イメージの伝播に関する一試論：ヴィルヘルム・ハイネ作大型石版画の分析を通して」を一般の方でも理解しやすいようにまとめなおした。
- f 発表者：主任学芸員 角田 拓朗
テーマ：山本芳翠と美人画
概要：山本芳翠は多岐にわたる活動が報告されている。そのなかでも美人画にまつわる史的貢献があるのではないかという問いについての考究である。パリ時代から寓意画を得意とした芳翠は、その描く女性像が理想化される傾向が顕著である。特に油彩画で顕著であるが、彼がパリから帰国後、明治 20 年代 30 年代の雑誌挿絵等でも美人画を発表していた実績がある。陶器のような白い滑らかな肌、伏し目がちなまなざしなど、明治 30 年代以後の美人画に強い刺激をあたえた可能性が高い。
- g 発表者：非常勤学芸員 小川 咲良
テーマ：初代から三代井上良斎の基礎的研究 ―作品、窯場、文献調査から―
概要：近代の東京・横浜で作陶を行った初代から三代井上良斎の作品と窯場について、実施した調査結果を報告した。作品については、館蔵品のほか神奈川県庁、板谷波山記念館、(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターで熟覧を行い用いられた技法を確認し、周辺人物との関係性や原料の使い分け、同時期の他の輸出陶磁器といった点を明らかにすることができた。また、窯と周辺地域の調査では、窯から大岡川を経て横浜港へと向かうルートを確認した。
- h 発表者：主任学芸員 新井 裕美
テーマ：相模大山にかかる有形・無形の文化財について―絵馬と民俗行事について―
概要：大山は、漁民からも信仰を集めた。今回収録した絵馬の図柄をみると、一般的な拝み図の

他に、地引網漁などが描かれた漁労に関する絵馬があり、漁民の大山に対する厚い信仰を窺わせる。漁民はヤマアテといって、大山は海上からの距離や位置によって自身がいるポイントをはかったり良い漁場を把握したりするためのランドマークとなっていた。大山阿夫利神社や大山寺の堂内には様々な絵馬が奉納されている。近いうちに実見調査を計画したい。

i 発表者：非常勤学芸員 三浦 麻緒

テーマ：高座郡小出村遠藤の山神講について 附一覧表：慶應3年～昭和35年の山神講の実施状況

概要：令和5年度に続き、当館で所蔵する高座郡小出村遠藤の「山講中連名控帳」について報告した。未着手であった「山神講中控帳」の翻刻・資料調査を全て実施し、慶應3年から昭和35年までの93年間125回にわたる山の神講実施の記録を一覧表にまとめ紹介した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費補助金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。令和7年度の採択は17件である。

ア 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：22H01007

研究課題：明治・大正・昭和戦前期図画手工教科書データベースの拡充とその活用に向けた調査研究

研究代表者：岡山大学 教授 赤木 里香子 氏

研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：令和4～6年度（7年度まで延長）

研究実績概要：データベース構築のためのデータ採集をおこない、データベースを改修した。

イ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：23H00585

研究課題：日本所在の中国木彫仏像の調査研究

研究代表者：横浜美術大学 教授 濱田 瑞美 氏

研究分担者：主任学芸員 神野 祐太

研究期間：令和5～9年度

ウ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：23H00587

研究課題：近代日本美術史における美術商に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗

研究分担者：学芸員 鈴木 愛乃

研究期間：令和5～7年度

研究実績概要：本調査研究では、近代日本美術における美術商の活動を具体化するため、多角的な視点で調査研究を行った。特徴的なこととしては、美術と工芸それぞれでは「美術品」の売買形態に差があることを軸に考察を展開し、売り立てを通じた絵画の様相が突出していた事実に注目した。また、その成果のより詳細な概要は成果報告書にまとめた。

エ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：24K00117

研究課題：国衙文書と本拠から解き明かす国衙系領主の統治技術と実態

研究代表者：日本大学 教授 田中 大喜 氏

研究分担者：主任学芸員 神野 祐太、学芸員 渡邊 浩貴

研究期間：令和6～9年度

オ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：21K00824

研究課題：開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和3～7年度（1年延長）

研究実績概要：画像史料に史料批判を加えることで、すべてが実像を伝えるものではなく、虚像も含まれていることを明確にし、虚像にもとづき欧米における日本観が形成されていったことを検証することで、史料批判にもとづく画像史料を利用した新たな方法論を提示すること、を本研究の目的とした。その結果、改めてその虚構性について明らかにするとともに、『日本遠征画集』所収大型石版画については、(1)三層構造で描いていること、(2)コラージュの手法がとられていること、(3)部分は事実であるが、それを集合させた全体としては「虚像」となっていること、(4)「歴史的瞬間にふさわしい」場面を意図して描かれていること、(5)一種の図鑑としての役割を果たしていること、(6)まなざしの交差がみられること、(7)人種に対する認識が確認できること、を明らかにした。また、日本イメージの伝播の実態について、19世紀半ばの欧米で人気のあった娯楽の一つであるムービング・パノラマにより、『遠征記』の公刊よりも先に、大衆が日本イメージを得る機会があったことも明らかにできた。

カ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00173

研究課題：足柄地方の宗教彫刻に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 神野 祐太

研究期間：令和4～7年度（1年延長）

研究実績概要：本年度は最終年度にあたり、これまでの調査記録をまとめて調査報告書（A4判縦、112頁）を刊行した。日本宗教文化史学会で研究発表をおこない、『日本宗教文化史研究』第58号及び『論集 東洋美術交渉』に論文を発表した。

キ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00869

研究課題：甲州道中における「合宿」形態の解明 ―相模国小原・与瀬宿と村落との関係から―

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究協力者：非常勤学芸員 根本 佐智子

研究期間：令和4～8年度

研究実績概要：令和4年度に引き続き当館所蔵坂本家文書の整理、撮影を進めた。また、相模原市立博物館所蔵甲州道中小原本陣清水家文書中の大型絵図撮影を行い、成果の一部を常設展示室において展示した。

ク 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：22K00885

研究課題：神奈川県における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究

研究代表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

研究協力者：元学芸員 古宮 雅明氏、学芸員 寺西 明子、非常勤資料整理員 椎橋 郁実

研究期間：令和4～7年度

研究実績概要：江戸幕府評定所に保管されていた裁許絵図の目録とされる、国立国会図書館所蔵「旧幕裁許絵図目録」所収、神奈川県（相模国・武蔵国三郡）に関わる裁許絵図の現況調査、および画面情報の収集を行う研究。本年は調査・写真撮影を完了し、分割撮影データの処理、写真合成、トレース作業を実施。四年間の研究成果をまとめた報告書の編集を行い刊行、当館HPでPDF公開した。

- ケ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00852
研究課題：明治前期における知識人官僚・高橋健三の総合研究—その思想と行動—
研究代表者：中央大学 教授 北井 辰弥 氏
研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：令和5～8年度
- コ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00965
研究課題：歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築
研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 新井田 秀一
研究分担者：学芸員 武田 周一郎
研究期間：令和5～8年度
研究実績概要：本研究の目的は、主に神奈川県域を描いた鳥瞰図を対象として、時代背景や名所旧跡等を網羅的に把握し、それらの情報を博物館での学習ツールとして広く活用できるように整理・構築することである。本年度は、研究代表者の所属機関である神奈川県立生命の星・地球博物館で開催された特別展「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」を通じて、研究成果を広く還元した。
- サ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K02805
研究課題：地域地質資源の発掘と調査、普及を通したプログラムの開発と試行
研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 企画普及課長 山下 浩之
研究分担者：学芸部長 丹治 雄一
研究期間：令和5～8年度
- シ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：24K04220
研究課題：水利資料群の研究資源化による中世～現代荘園地域の社会構造研究
研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：令和6～10年度
研究実績概要：本研究は、近江国柏木御厨故地（滋賀県甲賀市水口町）を対象に①水資源利用・開発に関する中世～現代に至るあらゆる水利資料群の情報をGIS上に記録し、時代毎のレイヤーに重ね合わせ統合することで研究資源化すること、②上記データを踏まえ、水資源に基づく柏木御厨内で起きた中世から現代にいたる社会集団の形成と展開の歴史的様相を、「水利」をキー概念として把握し考察することを目的とする。本年度は柏木御厨を構成する宇田・酒人・泉地区にて現地調査を行い、さらに研究の中間報告として現地で企画展（「柏木御厨と山中氏—水利が刻む中世の歴史と景観—」（甲賀市教育委員会との共催）会期：2026年1月21日～2026年3月8日）とシンポジウム（令和7年度 甲賀市城郭歴史フォーラム「甲賀の城と水利—土地に刻まれた戦国の記憶—」2026年1月24日）を開催した。
- ス 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：25K03688
研究課題：16世紀における喫茶文化史の再構築—御成・茶の湯を中心に—
研究代表者：東京国立博物館 学芸研究部 東洋室長 三笠 景子 氏
研究分担者：学芸員 梯 弘人
研究期間：令和7～9年度

セ 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：25K04433

研究課題：幕末における対外関係の認識に関する研究：海防・対外関係意見書の分析を中心に

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和7～9年度

ソ 研究種目名：研究活動スタート支援

課題番号：24K22435

研究課題：杉浦非水と雑誌に関する調査研究

研究代表者：非常勤学芸員 山口 希

研究期間：令和6～8年度（1年延長）

タ 研究種目名：研究活動スタート支援

課題番号：24K22458

研究課題：近代陶磁史における横浜・東京の作陶―初代から三代の井上良斎を中心に―

研究代表者：非常勤学芸員 小川 咲良

研究期間：令和6～7年度

研究実績概要：本研究は、近代の横浜・東京における、輸出陶磁器制作の全体像を明らかにすることを目的とし、その中でも特に、井上良斎についての調査を実施した。昨年度に引き続き、計10カ所の所蔵先で初代、二代、三代井上良斎の作品56点、宮川香山など関連作品67点の熟覧調査・撮影を行った。最終年度にあたり、報告書を刊行した。

チ 研究種目名：挑戦的研究(開拓)

課題番号：24K21174

研究課題：中世農業生産・流通量推計方法の構築

研究代表者：慶應義塾大学 教授 中島 圭一 氏

研究分担者：学芸員 渡邊 浩貴

研究期間：令和6～11年度

(3) その他外部研究資金によるもの

ア 助成内容：公益財団法人高梨学術奨励基金 若手研究助成

研究課題：海蝕洞穴における前庭部利用の実態解明

研究代表者：学芸員 佐藤 兼理

研究期間：令和7年度

研究実績概要：本研究では、神奈川県三浦半島に所在する間口洞穴遺跡を対象として、洞穴前庭部の発掘調査を中心に研究を進めた。洞穴内部と前庭部の空間的關係や利用状況の差異を検討した。前庭部の弥生時代包含層の深さについて概ね把握できた点、炭灰層に不連続な境界面が存在することを確認した点などが本研究の成果である。

イ 助成内容：公益財団法人河川財団 令和6年度河川基金助成事業 研究者・研究機関部門

研究課題：野洲川流域における地域の用水秩序と水利組織の形成に関する歴史学的研究

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究協力者：甲賀市教育委員会 佐野 正晴 氏、甲賀市教育委員会 水谷 光希 氏

研究期間：令和6～7年度

研究実績概要：野洲川流域にある近江国柏木御厨を事例に、中世～現代にかけての水利組織の歴史的変遷・形成過程を、文献史料・聞き書き・地質調査などから学際的に明らかにしていくことを目指す。本年度は中世～現在にわたる当該地域の水利に関わる社会集団の諸相と水資源開発の実態を復原し、その成果は現地において企画展（「柏木御厨と山中氏―水利が刻む中世の歴史と景観―」（甲賀市教育委員会との共催）会期：2026年1月21日

～2026年3月8日）とシンポジウム（令和7年度 甲賀市城郭歴史フォーラム「甲賀の城と水利―土地に刻まれた戦国の記憶―」2026年1月24日）を行うことで還元した。

(4) 個人研究活動

ア 研究報告書

(ア) 『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第52号 令和7年12月5日発行

a 種 別：論文

表 題：中世武士本拠研究の成果・課題・展望―中世武士本拠論の構築をめざして―

筆 者：学芸員 渡邊 浩貴

要 旨：本稿では、戦前から現在に至る膨大な日本中世史学の武士・在地領主研究を武士本拠研究史として整理を試み、①開発、②流通・交流、③宗教・文化、の論点から成果と課題を振り返る。その上で、研究史のなかで武士本拠モデルの把握に重要な研究視角を与えてきた石井進や海津一朗、現時点の到達点である小野正敏、齋藤慎一の諸論とモデルを再検証し、既往の武士本拠研究が抱える課題を闡明化させたいと、筆者のこれまでの研究を踏まえ「本拠論」の射程を提示することを目的とする。既往の本拠モデルは、単位所領内を対象とする本拠空間論と総括できる。ただし、武士・在地領主研究では広範な武士の諸活動が自明視されており、その活動は単位所領内に収まるものではない。本拠が本拠たり得るために、首都京都をはじめ権門都市群や地域社会への有機的回路の構築は必須であり、本拠に必須の社会的機能である。かかる立場から、従来の本拠空間論で措定された本拠を「狭義の本拠」とし、筆者の研究を踏まえながら如上の機能論的に把握される本拠を「広義の本拠」と定義した。この「広義の本拠」は①ネットワークモデル（単位所領を越えた本拠機能の図化）と、②レイヤーモデル（立体的・動態的な本拠機能の図化）、さらに③機能を機能たらしめる言説としての「本拠神話」を持ち、この三要素によって「狭義の本拠」は最終的に存在する。こうした立場を「本拠機能論」とし、武士、在地領主研究への逆照射を試みた。

キーワード：中世武士本拠論 狭義の本拠 広義の本拠 本拠機能論 本拠神話

b 種 別：論文

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵大勝金剛像に関する一試論

筆 者：任期付学芸員 樋口 美咲

要 旨：大勝金剛は『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』を唯一の典拠とする尊格で一面十二臂に表される。おもに敬愛法や息災法等について修される大勝金剛法の本尊である。本稿で取り上げる神奈川県立歴史博物館の大勝金剛像は、金剛杵と金剛鈴を腹前で執る点に特徴がある図像で、画像作例のなかに類をみない。この特徴的な図像が仁和寺・恵什所伝の図像と一致することに注目し、恵什所伝の図像の由来や相承のようすを事相書類に確認すると、恵什の図像が大勝金剛を十二臂大日とする尊格理解とともに相承されていたことがわかった。恵什の習いは狭義の小野流で相伝されており、なかでも勧修寺流諸師の事相書類にそれを重んじていたようすが認められることは、当館所蔵の大勝金剛像の制作背景を物語っていると考える。

キーワード：大勝金剛 恵什 『瑜祇経』

c 種 別：研究ノート

表 題：帰源院文書からみた鎌倉の寺社に残された秀吉朱印状の意義

筆 者：学芸員 梯 弘人

要 旨：先行研究において、秀吉は当知行安堵の朱印状を発給し、鎌倉の寺社を保護することで、自身がその地位に相応しいことを示したと理解されてきた。しかし、秀吉朱印状は寺社の要請を契機として作成されたものであったとみられる。鎌倉で宣言された当知行安堵の約束を確実にものとするため、寺社の関係者が帰京途中の秀吉の許を訪れ、朱印状発給を求めた故に作成されたと考えられるに至った。

キーワード：帰源院文書 鎌倉 秀吉朱印状 当知行安堵 徳川家康

d 種 別：研究ノート

表 題：「鈴木藤助日記」に見る江戸近郊農村の中小造醤油家経営―幕末期から明治初期にかけて―

筆 者：学芸員 寺西 明子、桜美林学園学園史編纂室 菊地 悠介 氏

要 旨：江戸近郊農村の有力農民が江戸・明治期に行った多角的な生業内容の一端を武蔵国橘樹郡長尾村の鈴木藤助が残した「鈴木藤助日記」から明らかにする。本稿では特に鈴木藤助家が江戸期から明治中期にかけて営んだ醤油醸造業に焦点をあて、その経営の変遷を「鈴木藤助日記」から整理した。また、関東の中小造醤油家が組織した「山之手造醤油家仲間」の性格についても考察を加え、関東の中小醤油醸造業研究の一事例として鈴木藤助家の造醤油経営の一端を明らかにした。

キーワード：日記 江戸近郊農村 中小造醤油家 造醤油家仲間

e 種 別：修復報告

表 題：芝山象嵌の修復に関する記録

筆 者：学芸員 鈴木 愛乃

要 旨：当館では令和6年4月から6月にかけて、輸出工芸品コレクターである金子皓彦氏のコレクションから、特に輸出漆器を紹介する特別展「近代輸出漆器のダイナミズム―金子皓彦コレクションの世界―」を開催した。展覧会に際して、芝山象嵌による装飾がほどこされた漆器のうち、パーツの破損等が見られる9点の修復が行われた。本稿では、それぞれの作品の修復箇所と修復方法についてまとめた。技法や材料の傾向や特徴に迫ることで、制作当初の状態について検討を加え、近代輸出漆器の制作の実態を知る一助とした。

キーワード：輸出漆器 芝山象嵌 芝山細工 芝山漆器 修復

f 種 別：調査報告

表 題：三浦市間口洞穴遺跡 第7次発掘調査概報（前庭部の確認調査）

筆 者：間口洞穴遺跡学術調査団（佐藤 兼理・釵持 輝久 氏・杉山 浩平 氏・高橋 健 氏・萩野 はな 氏・宇根 宏紀 氏）

要 旨：本報告は、弥生時代の海蝕洞穴の利用実態の解明の準備調査として実施した、神奈川県三浦市間口洞穴前庭部における発掘調査の概報である。洞穴の入口より1m手前に3m×1.5mの調査区を設定し、地表から約2.6mまで掘削を行った。調査の結果、鎌倉時代末～南北朝初期頭に属する合わせ口かわらけ1組と、同時期の土地造成痕跡を検出した。しかし、弥生時代の土層までは到達できなかった。前庭部の土層堆積が予想以上に厚く、弥生時代の層に達するためには、より深い掘削が必要であることが判明した点は重要な成果である。また、調査目的とは異なるものの、中世の土地開発に関する遺構・遺物が出土した点は洞穴の利用史を考察する上で重要な発見といえる。

キーワード：弥生時代 海蝕洞穴 前庭部 発掘調査

イ 個人研究活動

〈凡例〉（刊行年などは西暦で統一）

氏名（職名・専門分野等）

(ア) 著作

- a 単著・共著・学術論文
- b 書評・余録
- c 資(史)料紹介

(イ) 学術口頭報告

(ウ) 図録執筆・解説書執筆

(エ) 新聞・雑誌等への寄稿

(オ) 各種調査委員会等

(カ) 講師等

- a 外部依頼講座講師等
- b 当館主催講座等講師

- c 当館出張講座講師
- d 大学等非常勤講師
- (キ) ここ1年間の課題・研究テーマ

望月 一樹（館長・歴史）

- (エ) 「2025年度の開始に当たり」（『ボランティアニュース』99号、pp. 2-3、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、8月）
- (オ) 神奈川県博物館協会会長、神奈川県文化財協会常任理事、日本博物館協会理事、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員、あつぎ郷土博物館協議会委員、シルク博物館運営委員会委員、江戸東京博物館運営委員会委員、相模原市立博物館協議会公募委員選考委員会委員、相模原市立博物館常設展示室リニューアル展示基本設計業務委託事業者評価委員会委員、川崎市史市制100周年記念版編集懇談会委員、令和6年能登半島地震被災文化財等救援委員会活動派遣
- (カ) a かわさき市民アカデミー開講式記念講演「天の時 地の利 人の和 池上幸豊の新田開発一」（川崎市生涯学習プラザ、4月9日）
川崎市弘済会総会記念講演「近代川崎の発展と拡大～石井泰助の事績を中心に～」（ホテル精養軒、6月27日）
東海道川崎宿大学プロジェクト講演「葛重の時代 川崎では砂糖づくりが行われる？」（川崎市役所本庁舎復元棟ホール、6月28日）
川崎市宮前市民館市民自主学級講座第3回「『領家方』『地頭方』の地名と村の成立」（川崎市宮前市民館、10月19日）
神奈川県退職女性校長会見学研修会講演「川崎・発展のあゆみ～川崎宿から都市・川崎へ～」（ステーションコンファレンス川崎、10月21日）
かながわガイド協議会合同研修会講演「川崎宿と川崎大師」（東海道かわさき宿交流館、11月27日）
藤沢市藤澤浮世絵館連携講座第4回「すごろくで旅気分～江戸庶民の楽しみ方」（辻堂市民図書館、1月12日）
かわさき歴史ガイドボランティア養成講座第1回「宿場起立400年／市制100年を迎えて」（東海道かわさき宿交流館、1月23日）、第3回「厄除け信仰と川崎大師」（東海道かわさき宿交流館、2月6日）
かわさき市民アカデミー後期歴史（川崎学）講座第11回「池上新田を歩く」（川崎区池上新町～四谷上町周辺と池言坊、1月31日）
- b 館長トーク「田中休愚と酒匂川改修」（かながわ県民センター、6月13日）
館長トーク「象、多摩川を渡る！」（東海道かわさき宿交流館、9月19日）
館長トーク「旅日記からかながわの名所をさぐる」（かながわ県民センター、12月12日）
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品ー「スペシャルトーク 地域について考える」（関内ホール小ホール、3月7日）
ボランティア総会館長講話「博物館を知ろう！」（波止場会館、3月21日）
- (キ) 明治元年に明治天皇が江戸へ東幸した際に、多摩川には渡御用に臨時の船橋が架けられた。その船橋の具体的な様相については、すでに川崎市市民ミュージアムおよび郵政博物館が所蔵する資料から研究されていたが、今回新たな資料として明治元年「船橋御普請日記扣帳」が発見されたことから、本資料について解説、調査研究を行った。

丹治 雄一（学芸部長・歴史・近代）

- (ア) b 「石材から探る横浜の近代建築」（『ボランティアニュース』99号、p. 4、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、8月）
- (イ) 「旧横浜正金銀行本店本館の保存と活用に関する調査研究」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日）
- (オ) 茅ヶ崎市博物館協議会委員、清瀬市史編さん専門部会近代部会専門調査員、首都圏形成史研究会常任委員
- (カ) a 令和7年度第28回大学で学ぼう～生涯学習フェア～ライブラリートーク「かながわの近現代建築

の魅力」(横浜国立大学 菅野 裕子 氏と共同での講演会・トーク、神奈川県立図書館、10月12日)

- b 建物見学会「石材から探る横浜の近代建築」(当館周辺、4月25日)
講演会「近代日本の石材産業と石材企業家 土屋大次郎」(日本丸メモリアルパーク、11月27日)
- c 「かながわの地質と歴史を学ぶ」(平塚市立なでしこ小学校、10月29日)
- (イ) 当館建物である旧横浜正金銀行本店本館の建築関係資料の調査を継続するとともに、石材産業史研究関係では、真鶴町教育委員会所蔵「土屋家石材関係文書」及び旧土屋家住宅(元真鶴町民俗資料館、真鶴町岩所在)の調査にも取り組んだ。

桑山 童奈(企画普及課長・近世・美術[絵画])

- (ア)b 「休館中のけんぱく」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻229号、pp.2-5、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (イ) 「「かながわの浮世絵」の総合的研究—東海道揃物と江の島—」(調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日)
- (エ) 「100号に寄せるメッセージ」(『ボランティアニュース』100号、p.3、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、2月)
- (オ) 国際浮世絵学会常任理事・企画委員長、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- (カ)a 氏家浮世絵コレクション財団設立50周年記念特別「集結! 北斎のエナジー —肉筆浮世絵の殿堂—」シンポジウム「蒐集と保存—コレクションのこれから—」「丹波コレクションと神奈川県立歴史博物館—歴史系博物館で生き続ける個人コレクショナー—」(鶴岡八幡宮直会殿、4月26日)
いせはら歴史解説アドバイザー養成講座「絵画資料の基礎知識」(伊勢原市中央公民館、10月15日)
重度障害者・生涯学習ネットワーク主催「第4回訪問カレッジ学びの爽文化祭」「浮世絵から見る江戸の人たち」(国立オリンピック記念青少年総合センター、10月25日)
NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会主催「エンジョイかながわ講座 浮世絵と富士山 葛飾北斎にちょうせん」(神奈川県立麻生支援学校高等部、12月8日)
NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会主催「エンジョイかながわ講座 浮世絵をみて江戸時代を学ぼう」(神奈川県立中原支援学校高等部、1月22日、26日)
令和7年度小田原市立中央図書館総合歴史講座「小田原・箱根 浮世絵入門」描かれた小田原・箱根—図書館の浮世絵コレクションを中心に」(小田原市立中央図書館、3月8日)
- b 講演会「錦絵にみる明治人名録」(かながわ県民センター、4月15日)
高校生浮世絵講座「浮世絵で江戸時代の観光を知る」(藤沢市藤澤浮世絵館、8月5日)
藤沢市藤澤浮世絵館連携講座第3回、アフタートーク浮世絵鼎談「幕末の浮世絵とかながわ」(辻堂市民図書館、12月13日)
県博セミナー「錦絵に描かれた歌舞伎」「第3回 名所絵と歌舞伎—神奈川県域ゆかりの物語—」(神奈川近代文学館、2月15日)
- c 「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(厚木市立戸田小学校、7月8日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(厚木市立飯山小学校、10月1日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(横浜隼人高校、10月10日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(寒川町立一之宮小学校、10月27日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(小田原市立町田小学校、11月5日)
「博物館・学芸員の仕事」(開成町立文命中学校、11月11日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(厚木市立北小学校、12月17日)
「江戸時代の浮世絵を学ぶ」(神奈川県立横浜南支援学校小学部、1月15日)
- (イ) NPO法人フュージョンコムかながわと連携し、障害者向け講座に注力した。

(古代)

佐藤 兼理(学芸員・考古)

- (ア)a 「堅穴住居からみる南関東の弥生後期集落に関する一考察 —横浜市舞岡熊之堂を例に—」(『人類誌集報』第20号、pp.103-108、発行:水田稲作技術比較研究プロジェクト・人類誌調査

- (原始・古代の人類生活技術・生産性・交渉環境研究) グループ、12月)
- c 「三浦市間口洞穴遺跡 第7次発掘調査概報 (前庭部の確認調査)」 (『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、pp. 93-102、神奈川県立歴史博物館、12月)
- (イ) 「間口洞穴発掘調査報告」 (調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日)
- 「Cave Use in Agricultural Society」 (10th Worldwide Conference of The Society for East Asian Archaeology、Aberdeen University、Scotland Aberdeen、8月22日)
- 「中里遺跡における竪穴住居の類型試案」 (西相模考古学研究会、東海大学、9月27日)
- 「三浦市間口洞穴遺跡 第7・8次発掘調査概報」 (三浦半島地区遺跡調査発表会、ヴェルクよこすか、11月1日)
- 「三浦市間口洞穴遺跡 第7・8次発掘調査概報」 (第48回神奈川県遺跡調査・研究発表会、横浜市歴史博物館、1月25日)
- (オ) 神奈川県考古学会役員
- (カ) a 「列島東部の考古学 第3回 集落と住居からみる南関東の弥生社会」 (神奈川大学、7月12日)
- 「縄文の顔、弥生の顔、古墳の顔」 (横浜市歴史博物館、8月30日)
- 鶴見歴史の会「鶴見の丘、縄文・弥生の賑わい」 (寺尾地区センター、11月22日)
- みうらサイエンスカフェ「三浦市間口洞穴遺跡の発掘調査からみた海蝕洞穴の空間利用」 (うらりマルシェ研修室、3月14日)
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「ハニワのファッションから何がわかるか?」、5月)
- 講演会・現地見学会「太古の横浜水田探訪」 (舞岡公園 小谷戸の里、10月31日)
- けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「洞窟の考古学」 (関内ホール小ホール、3月7日)
- c 「知っているようで知らない考古学の世界」 (秦野市立堀川小学校、6月26日)
- 「知っているようで知らない考古学の世界」 (川崎市立東小田小学校、7月4日)
- 「知っているようで知らない考古学の世界」 (神奈川県立保土ヶ谷高等学校、9月2日)
- 「知っているようで知らない考古学の世界」 (川崎市立南河原小学校、10月2日)
- d 早稲田大学非常勤講師 「考古学研究Ⅰ—1・2」
- (キ) 南関東の弥生時代中期後葉～後期の竪穴住居内の儀礼空間と生活空間の違いについて研究を行った。横浜学術教育振興財団、高梨財団学術奨励基金の支援をいただき、三浦市間口洞穴の前庭部の発掘調査を実施した。成果の一部は東アジア考古学協会などで発表を行った。また、南関東の初期農耕集落の調査として千葉県南房総市仮家塚遺跡の発掘調査、洞窟遺跡の調査として三浦市白石洞穴・間口洞穴の発掘調査に参加した。これらの調査より先史時代の住まいの研究を進めていった。

(中世)

渡邊 浩貴 (学芸員・歴史)

- (ア) a 「武士本拠の仏像造立—威信財としての仏像とその機能—」 (中世瓦研究会編『アジア遊学 瓦から探る中世寺院』、pp. 123-139、勉誠社、5月)
- 「古墳の在地領主と本拠神話—利仁流藤原氏出身武蔵国野本氏の“同化”と“異化”—」 (『日本宗教文化史研究』29巻1号、pp. 17-34、日本宗教文化史学会、5月)
- 「起請文になった中世仮面—静岡県浜松市賀久留神社の舞楽面納曾利の事例—」 (『民具マンスリー』58巻4号、pp. 14705-14714、神奈川大学日本常民文化研究所、7月)
- 「鬼来迎源流考—浄福寺所蔵仮面群と鎌倉御家人東一族—」 (『藝能史研究』250号、pp. 1-18、藝能史研究会、7月)
- 「安芸国小早川氏の迎講と本拠形成—広島県三原市米山寺所蔵行道面群を手がかりに—」 (『民俗芸能研究』77号、pp. 19-52、民俗芸能学会編集委員会、7月)
- 「鶴岡弁才天坐像と鎌倉楽人中原光氏—楽統意識と造形選択の相関についての試論—」 (『日本宗教文化史研究』29巻2号、pp. 69-78、日本宗教文化史学会、11月)
- 「中世武士本拠研究の成果・課題・展望—中世武士本拠論の構築をめざして—」 (『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、pp. 1-29、神奈川県立歴史博物館、12月)
- b 「学芸員と特別展—神奈川県立歴史博物館 特別展「永福寺と鎌倉御家人」顛末記—」 (中世瓦研究会編『アジア遊学 瓦から探る中世寺院』、pp. 185-197、勉誠社、5月)

- 「虚構の杣と在地領主の〈神話〉—伊賀—ノ井松明講の歴史時空間—」（中世学研究会 第7回シンポジウム『山の資源と生業 資料集』、pp. 53-60、中世学研究会、7月）
- 「新人学芸員の日・一週間・一ヶ月一付 先輩学芸員からのコメント」（高木徳郎編『文化財を未来につなぐ 博物館と学芸員の仕事 学芸員をめざす人へ』、pp. 321-338、勉誠社、11月）
- 「「あやの井」（綾野井）の由来」（企画展示図録『企画展 柏木御厨と山中氏』、p. 7、神奈川県立歴史博物館、1月）
- 「「ジンズイ」する村の寄合」（企画展示図録『企画展 柏木御厨と山中氏』、p. 10、神奈川県立歴史博物館、1月）
- 「柏木御厨・山中氏城館の水利秩序」（令和7年度 甲賀市城郭歴史フォーラム『甲賀の城と水利—土地に刻まれた戦国の記憶—（予稿集）』、pp. 1-14、甲賀市教育委員会、1月）
- c 暦応二年（一三三九）六月六日「曾我師助書下」（神奈川県立歴史博物館所蔵）の紹介—南北朝期「多賀一族の競合と曾我氏—」（『淡海文化財論叢』17号、pp. 138-141、淡海文化財論叢刊行会、10月）
- 「近江国柏木御厨故地現地調査報告Ⅱ—甲賀市水口町酒人地区における聞き書き集—」（『淡海文化財論叢』17号、佐野正晴氏・水谷光希氏・鶴飼爽一郎氏と共著、pp. 319-325、淡海文化財論叢刊行会、10月）
- (i) 「杣の記憶と在地領主の〈神話〉—伊賀—ノ井松明講の歴史時空間—」（中世学研究会第7回シンポジウム「山の資源と生業」準備報告会、オンライン、4月2日）
- 「中世武士本拠研究序説—研究史の歩みと課題・射程—」（鎌倉御家人研究会4月例会報告、神奈川県立歴史博物館、4月26日）
- 「鎌倉御家人の文化戦略と音楽儀礼—西遷御家人の本拠形成事例から—」（日本宗教文化史学会2025年度 第29回大会、龍谷大学、6月28日）
- 「虚構の杣と在地領主の〈神話〉—伊賀—ノ井松明講の歴史時空間—」（中世学研究会第7回シンポジウム「山の資源と生業」、國學院大學、7月6日）
- 「駿河国大岡荘故地の水利復原研究」（天神洞遺跡調査第2回研究会、沼津市文化財センター、9月6日）
- 「〈中世〉「音世界」の射程—“手段”としての学際・比較研究を通じて—」（第1回研究会アジア遊学音楽企画研究会、オンライン、10月30日）
- 「（基調講演）柏木御厨・山中氏城館の水利秩序」（令和7年度 甲賀市城郭歴史フォーラム「甲賀の城と水利—土地に刻まれた戦国の記憶—」、あいこうか市民ホール、1月24日）
- 「総論 狂奏する〈音世界〉史」（第2回研究会 アジア遊学音楽企画研究会、オンライン、2月1日）
- 「成立期鎌倉の武士拠点と〈神話〉—本拠複合体と「場所の記憶」をめぐる—」（鎌倉御家人研究会3月例会報告、オンライン、3月9日）
- (ii) 企画展示図録『企画展 柏木御厨と山中氏』（神奈川県立歴史博物館、1月）
- (e) 「第1回 源頼朝」（（取材協力）『よこはまナビ vol. 38 [連載企画] 過去と未来をつなぐ道 街道人物往来』、NEXCO 東日本 E-NEXCO、10月24日）
- (f) 地方史研究協議会常任委員
- (ka) 文化庁 第13回 指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー「博物館と地域の連携①—神奈川県立歴史博物館 特別展「永福寺と鎌倉御家人」の事例から—」（東京国立博物館、7月9日）
- b 講演会「日本中世史のフィールドワーク最前線！！」（かながわ県民センター、7月12日）
- 大学生向け「刀剣入門講座 神奈川県立歴史博物館の赤羽刀について」（かながわ県民センター、8月22日）
- c 「中世武士の鎌倉」（横須賀市立常葉中学校、1月16日）
- 「中世武士の鎌倉」（厚木市立依知小学校、1月21日）
- d 慶應義塾大学非常勤講師 「歴史Ⅰ・Ⅱ」
- (k) 平安末・鎌倉初期～南北朝内乱期における列島各地の武士本拠を対象に、主に学際的な現地調査手法を用いて復原研究を継続している。本拠研究では主に開発・親族構造・流通（交通）・文化・宗教の観点からアプローチし、その成果の一部は本拠機能論として当館研究報告にて公表した。本拠の開発と地域秩序との相関については、柏木御厨と山中氏らの事例を中心に甲賀市教育委員会との共催による企画展およびシンポジウムにて成果還元を行った。

梯 弘人（学芸員・歴史）

- (ア) a 「帰源院文書からみた鎌倉の寺社に残された秀吉朱印状の意義」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、pp. 45-58、神奈川県立歴史博物館、12月）
資料紹介「海上交通の規則を定めた北条家朱印状」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻229号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (イ) 「北条氏当主が花押のみを据えた文書について」（小田原地方史研究会、小田原市民交流センター、3月22日）
- (ウ) 「三郎殿宛北条氏康判物の古文書学的考察」（横浜市歴史博物館編『北条幻庵—横浜・小机城と関東の戦国—』図録、pp. 111-113、横浜市歴史博物館、11月）
- (カ) a 大磯町郷土資料館ワークショップ「甲冑を着てみよう！～日本の甲冑のお話と模擬甲冑の試着～」（大磯町郷土資料館、10月11日）
横浜市歴史博物館特別協力講演会「神奈川県立歴史博物館の北条氏関係文書」（横浜市歴史博物館、12月7日）
横浜市歴史博物館特別協力講演会「三郎宛北条氏康判物の古文書学的考察」（横浜市歴史博物館、1月12日）
- b 中高生対象古文書講座「古文書を「読み解いて」みよう～北条家朱印状を題材として～」（鎌倉学園中学校・高等学校、7月29日）
ボランティアフォローアップ研修「神奈川県立歴史博物館の北条家関係資料について」（日本丸メモリアルパーク、11月15日）
講演会「北条家朱印状の謎に迫る！」（神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）、12月6日）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「神奈川県内で秀吉が書いた手紙」（関内ホール小ホール、3月7日）
- c 「鎧兜の移り変わりから見る歴史」（横浜市立舞岡小学校、10月1日）
- (キ) 北条氏の古文書書式に関する研究や、戦国時代の儀式・儀礼に関する研究を進めた。

神野 祐太（主任学芸員・美術〔彫刻〕）

- (ア) a 「佐賀・円明寺地藏菩薩像の再検討—肥前千葉氏の造像と京一」（『日本宗教文化史研究』第58号、pp. 33-50、11月）
「箱根権現伝来の箱根町興福院菩薩像頭部について—箱根山常行三昧堂本尊阿弥陀如来像の可能性—」（肥田路美先生古稀記念論文集刊行会編『論集 東洋美術交渉』、pp. 417-429、中央公論美術出版、3月）
『科学研究費助成事業基盤研究（C）「足柄地方の宗教彫刻に関する基礎的研究」研究成果報告書』（pp. 1-112、3月）
- b 「2025年までの神奈川県の仏像彫刻調査私見」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻231号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館、2月）
「仏像の宝庫、日向薬師宝城坊」（『ボランティアニュース』100号、pp. 4-5、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、2月）
- (イ) 「古代相模国の仏像製作の状況—南足柄市朝日観音堂毘沙門天像を中心に—」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日）
「佐賀・円明寺地藏菩薩像の再検討—肥前千葉氏の造像と京一」（日本宗教文化史学会第29回大会、龍谷大学、6月28日）
「伊勢原市・大山寺鉄造不動三尊像の造像時期とその製作背景について—舞楽曼荼羅供私記大山（称名寺聖教）を中心に—」（彫刻史研究会、神奈川県立金沢文庫講堂、11月9日）
- (オ) 館山市文化財審議委員、箱根町文化財保護委員会委員（4月～）、時宗文化財保存委員（6月～）
- (カ) a 「彫刻調書の取り方」（一般社団法人三乗堂、三乗堂工房、4月9日）
「最明寺北条時頼坐像について」（大井町最明寺、最明寺本堂、8月20日）
「川崎市多摩区長尾山妙楽寺の薬師三尊像について（令和7年度第3期文化財ボランティア講座第5回）」（川崎市教育委員会、川崎市役所南庁舎、9月19日）
いせはら歴史解説アドバイザー養成講座「仏像の基礎知識」（伊勢原市教育委員会、伊勢原市中央公民館、11月5日）

神奈川県文化財協会第5回見学会（元箱根磨崖仏、11月13日）

「彫刻の調書の取り方」（大正大学文学部、大正大学巣鴨キャンパス、11月20日）

「調査報告書刊行記念 歴史講座「松田町の仏像」」（松田町教育委員会、松田町生涯学習センター大会議室、2月28日）

「九州千葉氏と小城円明寺の地藏菩薩像」（千葉氏フォーラム、千葉市美術館11階講堂、3月15日）

「仏像の見方の基礎を学ぶ（見方が分かる！仏像と工芸品にみる日本の美～入門編）」（調布市西部公民館、3月21日）

- b 教員のための博物館講座「鎌倉遠足のふかーい楽しみ方—仏像編—」（神奈川県立総合教育センター207研修室、8月8日）

現地見学会「伊勢原・日向薬師の仏像」（日向薬師宝城坊、10月16日）

横浜市歴史博物館連携講演会「横浜の仏像を知る！—身近なみほとけたちをハッケンしよう—」（横浜市歴史博物館、2月21日）

けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「県博の仏像入門！」（関内ホール小ホール、3月7日）

- c 「鎌倉大仏をもっと知る！」（藤沢市立羽鳥小学校、5月30日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（鎌倉市立第一小学校、7月1日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（寒川町立南小学校、7月3日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（小田原市立早川小学校、7月4日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（横須賀市立富士見小学校、7月14日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（横須賀市立大塚台小学校、7月14日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（藤沢市立富士見台小学校、7月15日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（横浜市立西富岡小学校、9月2日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（鎌倉市立御成小学校、9月11日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（鎌倉市立腰越小学校、9月16日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（逗子市立久木小学校、10月22日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（藤沢市立御所見小学校、10月30日）
「鎌倉大仏をもっと知る！」（海老名市立杉久保小学校、12月8日）

- (キ) 本年度は科学研究費の最終年度のため調査報告書の執筆・刊行を行った。連携研究により大井町最明寺の彫刻調査を開始した。引き続き、仏像・神像・肖像彫刻・仮面類の調査を実施している。

樋口 美咲（任期付学芸員・美術〔絵画〕）

- (ア)a 「京都・悲田院所蔵大勝金剛曼荼羅に関する一考察」（『密教図像』第44号、pp.1-19、12月）
「神奈川県立歴史博物館所蔵大勝金剛像に関する一試論」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、pp.31-44、神奈川県立歴史博物館、12月）
「〈研究ノート〉奈良・西大寺所蔵黒塗大神宮御正体厨子について」（『朱』第69号、pp.178-190、3月）
- b 「箱根権現縁起絵巻の世界への誘い」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻231号、pp.2-5、神奈川県立歴史博物館、2月）
- (イ) 「東密諸流の大勝金剛像の図像研究」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (カ)a 浄土宗小田原組総代世話人会定期総会・研修会「描かれた阿弥陀さま」（春光院本堂、6月21日）
横浜美術大学生涯学習講座2025年前期「日本美術史 狩野派超入門」（横浜美術大学、5月18日、6月8日、29日、7月6日、20日）
横浜美術大学生涯学習講座2025年後期「日本美術史 超入門 江戸絵画の諸相」（横浜美術大学、9月21日、10月5日、19日、11月2日、9日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「一遍上人像」、9月）
講演会「描かれた箱根権現縁起の世界」（かながわ県民センター、2月27日）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「怒りの美術 県博の北野天神縁起絵巻」（関内ホール小ホール、3月7日）

- c 「中世・近世の絵画の見方」（箱根町立湯本小学校、9月9日）
- (キ) 大勝金剛に関する絵画作例の実見調査を踏まえ、図像や様式の検討から、平安～鎌倉時代における大勝金剛の図像の継承について考察した論文を発表した。

鈴木 愛乃（学芸員・美術〔工芸〕）

- (ア)a 「芝山象嵌の修復に関する記録」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、pp. 77-92、神奈川県立歴史博物館、12月）
「近代の横浜にみる「産地」の形成」（『JSPS 科研費 23K25284 科学研究費助成事業 基盤研究（B）研究成果報告書 近代日本美術史における美術商に関する基礎的研究』、角田 拓朗と共著、pp. 14-20、3月）
- b 「近代輸出工芸の理解に大切なこと」（『ボランティアニュース』100号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、2月）
- (イ) 「近代横浜における洋家具制作の基礎的研究—人名録からみる洋家具制作の変遷—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (カ)a 「中郷カレッジ第五回 横浜から世界へ 近代の輸出工芸」（木更津市中郷公民館、10月15日）
美術史講座「見方が分かる！ 仏像と工芸品にみる日本の美～入門編② 陶磁器や漆器から読み解く、日本と海外の文化交流」（調布市西部公民館、3月28日）
- b 講演会「陶磁器・漆器産地としての横浜」（かながわ県民センター、5月30日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「堆朱蓮華文方盆」、7月）
講演会&見学会「職人が語る！ 横浜家具づくり四方山ばなし」（ブラフ18番館、9月27日）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「対談 美術にみる人力車 浮世絵と工芸品から」（関内ホール小ホール、3月7日）
- c 「博物館・学芸員の仕事」（湘南白百合学園中学校、5月20日）
「博物館・学芸員の仕事」（座間市立立野台小学校、6月4日）
「博物館・学芸員の仕事」（茅ヶ崎市立鶴嶺中学校、10月28日）
- (ク) 館所蔵・保管資料（中世工芸および近代工芸）に関する調査研究、整理作業と、近代の横浜における輸出工芸について調査研究を行った。分担する科学研究費に関して、最終年度にあたり、報告書を刊行した。

（近世）

寺西 明子（学芸員・歴史）

- (ア)a 「『鈴木藤助日記』に見る江戸近郊農村の中小造醤油家経営—幕末期から明治初期にかけて—」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第52号、菊地 悠介 氏と共著、pp. 59-76、神奈川県立歴史博物館、12月）
- (イ) 「鎌倉絵図と当館所蔵「相州鎌倉之図」」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日）
「小田原市主催調査 東京国立博物館所蔵小田原城天守模型調査報告」（研究活動推進会議研究会報告、神奈川県立歴史博物館、7月）
- (ウ) 「相模・武蔵国裁許裏書絵図の資料形態整理」「裁許絵図撮影方法」「県内論所分布図」（根本 佐智子『2022年～2025年度 科学研究費助成事業 基盤研究（C）研究成果報告書 JP22K00885 神奈川県域における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究』、pp. 14, 51-61、3月）
「学芸員実習の余響」（『横浜市歴史博物館30周年記念誌』、横浜市歴史博物館、3月）
「藤助が巡礼した村々」（川崎市市民ミュージアム主催「企画展 稲毛の観音札所」、大山ふるさと館、3月）
- (エ) 「日記にみる江戸時代の食」（『ボランティアニュース』99号、pp. 6-7、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、8月）
- (カ)a 江戸楽アカデミー「江戸時代の記録からたどる食」①「江戸時代の村の醤油屋さん」、②「江戸時代の日記からみる食」（やまとみらい（文化創造拠点等 指定管理者）主催／大和市渋谷学習センター、6月13日、20日）
健康都市大学「近世木版絵図の世界」①「一枚に描かれた絵図」、②「大きな絵図、長い絵図」

(やまとみらい(文化創造拠点等 指定管理者) 主催/大和市生涯学習センター、大和市文化創造拠点シリウス、12月5日, 12日)

藤沢市藤澤浮世絵館連携講座第2回「庶民が見た黒船来航」(辻堂市民図書館、11月15日)

鎌倉国宝館・交流館友の会 例会「鎌倉に寄せられた江戸の関心」(鎌倉生涯学習センター、3月17日)

- b 講演会「日記にみる江戸時代の食」(神奈川県立公文書館、6月7日)
古文書講座「日記にみる江戸時代の食」「幕末・明治 農民の日記」(かながわ県民センター、7月5日)
ミュージアムトーク「今月の逸品」(「相模国津久井県与瀬村名主・問屋役坂本家文書 与瀬宿絵図」、8月)
ボランティアフォローアップ研修「当館所蔵の出版絵図に見る近世絵図資料の系譜」(波止場会館、2月14日)
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「悪口の古文書学」(関内ホール小ホール、3月7日)
- c 「旅のよそおいとかながわの名所」(川崎市立宮前小学校、9月30日)
「旅のよそおいとかながわの名所」(川崎市立御幸小学校、10月8日)
- (キ) 令和6年までの県費研究をもとに報告、各種講座を行った。また、館所蔵の日記資料の研究内容を『研究報告』に執筆し、同資料を活用した講座を行い普及に努めた。また、引き続き甲州道中与瀬宿坂本家文書、矢倉沢村田代家文書の撮影・調査を進めた。

根本 佐智子(非常勤学芸員・歴史)

- (ア)a 『2022年～2025年度 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究成果報告書 JP22K00885 神奈川県における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究』(pp.1-47, 64-172、3月)
- b 「危機的な状況にある言語・方言サミット・八丈島大会参加記録特別号を読んで」(『令和6年度新島村生活調査 調査概要第二十三報』pp.22-23、新島村博物館、4月)
- (イ) 「『松平造酒助江戸在勤日記』に見る庄内との交流―食べ物を中心に―」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
「日記に見る江戸時代の食」(『ボランティアニュース』99号、pp.6-7、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、8月)
- (カ)a 鶴岡市大山自治会主催令和おうら大学歴史学講座「武士の絵日記―幕末を生きた庄内藩士松平造酒助の記録―」(大山コミュニティセンター(オンライン)、6月26日)
第139回ワン・コイン古文書講座「松平造酒助江戸在勤日記に見る幕末江戸在勤武士の食生活」(川崎市宮前市民館、1月17日)
- b 講演会「日記にみる江戸時代の食」「幕末 武士の日記」(神奈川県立公文書館、6月7日)
古文書講座「日記にみる江戸時代の食」「幕末 武士の日記」(かながわ県民センター、7月5日)
ミュージアムトーク「今月の逸品」(「大型化した裁許絵図」、10月)
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「武士の絵日記」(関内ホール小ホール、3月7日)
講演会「江戸時代の巨大絵図」(神奈川県立かながわ労働プラザ(エルプラザ)、3月12日)
- c 「絵図で見る江戸時代」(厚木市立上依知小学校、9月25日)
- (キ) 神奈川県内における幕府評定所裁許絵図の研究。最終年度のため研究をまとめ、報告書を刊行、当館HPで公開、講演会で発表した。『松平造酒助江戸在勤日記』の研究。特に造酒助の食生活に関する研究を行い、成果を講演会・古文書講座で発表した。総合研究の矢倉沢村田代家文書の整理、写真撮影を進めた。

山口 希(非常勤学芸員・美術[絵画])

- (ア)c 「杉浦非水と明治時代の雑誌図案」「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」展示作品を中心に(『鹿島美術研究』年報第42号別冊、pp.249-259、鹿島美術財団、11月)
- (イ) 「杉浦非水と明治時代の雑誌図案」「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」展示作品を中心に(調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5月9日)

- (カ) b 藤沢市藤澤浮世絵館連携講座第3回「進化する浮世絵—芳幾・清親を中心に」、アフタートーク浮世絵鼎談「幕末の浮世絵とかながわ」（辻堂市民図書館、12月13日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「落合芳幾の画業」、1月）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「対談 美術に見る人力車 浮世絵と工芸品から」（関内ホール小ホール、3月7日）
講演会「進化する浮世絵」（神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）、3月20日）
- c 「浮世絵と明治時代の印刷」（秦野市立渋沢小学校、10月29日）
- (キ) 公益財団法人鹿島美術財団助成と科学研究費の研究課題として、雑誌資料を中心とした杉浦非水の図案について調査研究を行った。また、小林清親をはじめとする明治期の浮世絵資料について整理・研究に取り組み、講演会を行った。

(近代)

嶋村 元宏（主任学芸員・歴史）

- (ア) a 「ムービング・パノラマが語る19世紀の中国と日本—1856年1月28日開幕『最初の展覧会：描かれた中国と日本』開催告知プログラムを中心として—」（『多摩美術大学 研究紀要』第40号、pp.173-189、多摩美術大学、3月）（査読有）
「幕末期における“熱い”海外情報と“冷めた”海外情報」（岩田みゆき編『オランダ別段風説書の研究』、pp.137-176、吉川弘文館、3月10日）
- (イ) 「19世紀中葉における日本観の形成とその伝播について」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (オ) 明治維新史学会会誌編集委員
- (カ) a 横浜市青葉区郷土史の会「神奈川県立歴史博物館 令和6年度特別展 かながわへのまなざしをふりかえって」（横浜市青葉公会堂、4月10日）
- b 講演会「幕末の国際情勢認識を探る—『オランダ別段風説書』をとおして「鎖国」を考える—」（かながわ県民センター、9月14日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「ルビコン川を渡る」、12月）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「オランダからの通商条約草案」（関内ホール小ホール、3月7日）
- c 「日本の開国と異文化交流」（横須賀市立神明小学校、7月11日）
「日本の開国と異文化交流」（神奈川県立霧が丘高等学校、8月25日）
「日本の開国と異文化交流」（横須賀市立汐入小学校、9月3日）
- d 青山学院大学文学部非常勤講師 「日本史特講(9)/(10)日本開国史の諸問題」
駒澤大学文学部非常勤講師 「情報メディア論」
多摩美術大学リベラルアーツセンター非常勤講師 「博物館資料論」
- (キ) 「19世紀中葉における国際秩序の変容」をメインテーマに研究を進めている。本年度からJSPS科研費JP25K04433「幕末における対外関係の認識に関する研究：海防・対外関係意見書の分析を中心に」が採択され、通商容認＝開国と理解してよいかということについて追究を始めた。

大藪 佳純（非常勤学芸員・歴史）

- (イ) 「戦時期日本の食料政策と陸軍経理組織—社会へのアプローチを中心に—」（第16回戦争社会学研究会大会、早稲田大学早稲田キャンパス、6月22日）
「戦時期日本の食糧問題と陸軍経理組織」（第116回内務省研究会、國學院大學渋谷キャンパス、1月10日）
- (オ) 国史学会運営委員
- (カ) a 陸上自衛隊小平学校第61期警務科及び第64期会計課幹部特修戦史命題研究発表会（陸上自衛隊小平駐屯地小平学校、8月6日、7日）
神奈川県立横浜国際高校IBコースにおけるDP歴史授業講師（神奈川県立横浜国際高校、3月3日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「調査する行員たち—横浜正金銀行の『調査報告』—」、3月）
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「調査する行員たち—横浜正金銀行の海外勤務—」

- (関内ホール小ホール、3月7日)
- d 「陸上自衛隊小平学校第61期警務科及び第64期会計課幹部特修課程学生に対する戦史講話
「若松文庫」の活用について—その背景を知る—」(陸上自衛隊小平駐屯地小平学校、4月2日)
- (キ) 館蔵資料である横浜正金銀行調査部図書の特質をつかむため、横浜正金銀行調査課(のち、調査部)について調査・研究した。また、「戦時期日本の食料政策と陸軍経理組織」というテーマで2025年度笹川科学研究助成を受けており(研究番号:2025-1003)、こちらについても調査・研究を進め報告を行った。

角田 拓朗(主任学芸員・美術〔絵画〕)

- (ア)a 『明治美術学会40周年国際シンポジウム 明治から／明治へ 書き直し近代日本美術』(共編著、明治美術学会、7月)
「團伊能旧蔵コレクションの存在証明—近代日本洋画史基礎形成論—」(『近代画説』34号、明治美術学会、pp.81-95、12月)
「近代日本美術史における美術商に関する基礎的研究」(科学研究費成果報告書、共編著、角田拓朗・鈴木 愛乃、3月)
- (イ) 「山本芳翠と美人画」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月)
シンポジウム「映月を考える 映月から考える」総合討議司会(平塚市美術館、10月18日)
オンライン・シンポジウム「次世代日本画研究フォーラム:星野コレクションの作品を巡って」総合討議司会(美人画研究会・東海大学文明研究所・海の見える杜美術館、11月9日)
「画題考証図から壁画へ 二世五姓田芳柳の功績」オンライン研究会 明治を描いた洋画家たち～(外苑聖徳記念絵画館の「壁画謹製記録」を読み解く第3回、明治神宮国際神道文化研究所、11月29日)
- (ウ) 企画展図録『北澤映月』(共編著、平塚市美術館、10月)
企画展図録『下村観山』(共編著、日本経済新聞社、3月)
- (エ) 「洋画の夜明け十選① 初代五姓田芳柳「西洋老婦人像」」(『日本経済新聞 全国版』、9月10日)
「洋画の夜明け十選② チャールズ・ワグマン「街道」」(『日本経済新聞 全国版』、9月11日)
「洋画の夜明け十選③ 五姓田義松「老母図」」(『日本経済新聞 全国版』、9月12日)
「洋画の夜明け十選④ 亀井竹二郎「望雨中不二山」」(『日本経済新聞 全国版』、9月15日)
「洋画の夜明け十選⑤ アントニオ・フォンタネージ「風景(不忍池)」」(『日本経済新聞 全国版』、9月17日)
「洋画の夜明け十選⑥ 高橋由一「豆腐」」(『日本経済新聞 全国版』、9月18日)
「洋画の夜明け十選⑦ 小林清親「新橋ステーション」」(『日本経済新聞 全国版』、9月19日)
「洋画の夜明け十選⑧ 小山正太郎「濁膠療湯黄葉村店」」(『日本経済新聞 全国版』、9月22日)
「洋画の夜明け十選⑨ 浅井忠「収穫」」(『日本経済新聞 全国版』、9月23日)
「洋画の夜明け十選⑩ 山本芳翠「浦島」」(『日本経済新聞 全国版』、9月24日)
- (オ) 明治美術学会監事・編集委員、松戸市美術品等選定委員会委員、馬車道日曜画家展審査委員
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「修復報告:初代五姓田芳柳《西洋老婦人像》《井田讓像》」、4月)
講演会「横浜山手の画家 ワグマン」(横浜市イギリス館、6月28日)
講演会「近代横浜 輸出美術の魅力」(かながわ県民センター、10月23日)
けんぱくトークフェス—学芸員が語る逸品—「輸出された浮世絵」(関内ホール小ホール、3月7日)
- (キ) 令和7年度は、代表を務める科研費調査研究の最終年度にあたり、報告書をまとめた。詳細は、報告書を参照されたい。また継続的に五姓田派に関する調査を行っており、そのひとつの成果として論考を発表した。また新聞連載によって、五姓田派を含むひろく明治洋画の普及に貢献したことも特記しておきたい。

小川 咲良（非常勤学芸員・美術〔工芸〕）

- (ア)a 『2024～2025 年度 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 研究成果報告書
課題番号 24K22458 近代陶磁史における横浜・東京の作陶―初代から三代の井上良斎を中心に―』（pp. 1-72、3 月）
- (カ)b ボランティアフォローアップ研修「明治の横浜・東京の輸出陶磁器制作 宮川香山の眞葛焼、井上良斎の隅田焼を中心に」（神奈川県立公文書館、5 月 10 日）
講演会「明治横浜の輸出陶磁器」（かながわ県民センター、11 月 7 日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「眞葛焼 釉下彩山水図香炉」、11 月）
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「横浜から世界へ 宮川香山の眞葛焼」（関内ホール小ホール、3 月 7 日）
- (キ) 寄贈・寄託の受け入れ作品、館保管資料（主に近代輸出工芸）に関する調査、搬入、整理作業、撮影を行った。また、昨年度に続き三代井上良斎についての作品の熟覧、文献調査を行ったほか、各地の近代の輸出陶磁器、登り窯の調査・見学を行った。

（現代）

武田 周一郎（学芸員・歴史）

- (ア)a 『歴史地理学事典』（歴史地理学会編、分担執筆、pp. 448-449、丸善出版、12 月）
『吉田初三郎日本全国鳥瞰図集成Ⅰ』（堀田典裕編、分担執筆、pp. 73-78、国書刊行会、2 月）
『歴史地理学―近現代の課題とその探求―』（中西 僚太郎 氏・花木 宏直 氏・清水 克志 氏と共編、山川出版社、3 月）
- b 「2024 年学界展望 地図」（『人文地理』77 巻 3 号、pp. 360-365、人文地理学会、10 月）
「（文献紹介）地図と読む 日本の街道」（『地図情報』45 巻 4 号、p. 36、地図情報センター、2 月）
- (イ) 「横浜歴史 GIS の構築」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5 月 9 日）
- (ウ) 特別展図録『初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―』（分担執筆、pp. 1-6、神奈川県立生命の星・地球博物館、7 月）
- (オ) 首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会編集委員、同評議員
- (カ)b 高校生・大学生対象 測量船見学会「海上保安庁の測量船で知る海の防災」（海洋情報資料館・海上保安庁測量船、5 月 31 日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「神奈川県立博物館の開館」、6 月）
講演会「神奈川県立歴史博物館の戦争資料」（かながわ県民センター、7 月 31 日）
藤沢市藤澤浮世絵館連携講座第 1 回「地図で楽しむ近現代の藤沢」（辻堂市民図書館、10 月 11 日）
講演会「吉田初三郎の鳥瞰図を語る」（神奈川県立生命の星・地球博物館、10 月 13 日）
ボランティアフォローアップ研修「神奈川県立歴史博物館の戦争資料」（波止場会館、12 月 20 日）
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「60 年前にタイムスリップ『馬車道と博物館』」（関内ホール小ホール、3 月 7 日）
- c 「身近な地域の現代史」（横須賀市立諏訪小学校、1 月 16 日）
- (キ) 主に館蔵現代資料を対象として調査を進め、特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」（神奈川県立生命の星・地球博物館共催）に協力した。

（民俗）

新井 裕美（主任学芸員・民俗）

- (ア)a 「神奈川県東部の湯立神楽」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻 230 号、pp. 2-5、神奈川県立歴史博物館、10 月）
- (イ) 「神奈川県内の降雨祈願の山について」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、5 月 9 日）
- (オ) 秦野市文化財保護委員会委員
- (カ)b ボランティアフォローアップ研修「かながわの民俗を振り返る」（神奈川県立近代文学館、7 月 20 日）
講演会「南関東地方の湯立神楽」（かながわ県民センター、8 月 29 日）
講演会「かながわの正月」（日本丸メモリアルパーク、1 月 18 日）

けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「疫病退散！」（関内ホール小ホール、3月7日）

- c 「昔の道具を調べよう」（横浜市立豊田小学校、12月9日）
「昔の道具を調べよう」（神奈川県立横浜南支援学校小学部、1月16日）
「昔の道具を調べよう」（厚木市立北小学校、1月19日）
「昔の道具を調べよう」（海老名市立社家小学校、1月22日）
「昔の道具を調べよう」（綾瀬市立落合小学校、1月26日）
- (キ) 相模大山及びその周辺地域の雨乞習俗に着目し、事例を収集して分析を試みた。
県内の祭礼の現状を撮影して編集を行った。その成果は民俗展示室を充実させるためのグラフィックパネルに追加した。

三浦 麻緒（非常勤学芸員・民俗）

- (ア)b 資料紹介「当館所蔵のノラギ（野良着）」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻230号、pp.6-7、神奈川県立歴史博物館、10月）
- (イ) 「高座郡小出村遠藤の山神講について 附一覧表：慶應3年～昭和35年の山神講の実施状況」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (エ) 「御霊神社の面掛行列」（『野田真吉特集―ゆきははなである』、pp.26-29、ノーム、12月）
- (オ) 相模民俗学会運営委員
- (カ)b 講演会「暮らしの中の講」（かながわ県民センター、12月5日）
親子向けワークショップ「お手玉づくり」（横浜市青少年育成センター、1月24日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「海の仕事着」、2月）
けんぱくトークフェスー学芸員が語る逸品―「絵馬に願いを！」（関内ホール小ホール、3月7日）
- c 「昔の台所と食べ物」（座間市立相武台東小学校、1月16日）
「昔の台所と食べ物」（海老名市立今泉小学校、1月20日）
- (キ) 館所蔵の民俗資料に関する調査研究のほか、常設展示室のグラフィックパネル作成のために神奈川県内の祭礼行事の調査と記録撮影を行った。

（その他）

椎橋 郁実（非常勤資料整理員・情報資料）

- (ア)b 「裁許絵図データの加工編集」（根本佐智子『2022年～2025年度 科学研究費助成事業 基盤研究(C)研究成果報告書 JP22K00885 神奈川県域における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究』、pp.62, 64-172、3月）

市野 悦子（非常勤学芸員・教育普及）

- (エ) 「令和6年度第5回研修会 シンポジウム「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」参加記」（『神奈川県博物館協会会報』第97号、pp.41-43、神奈川県博物館協会、3月）

金子 あゆみ（非常勤学芸員・教育普及）

- (ア)b 「THE けんぱく PUNCH 2025年7月～9月の催し物情報」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻229号、p.8、神奈川県立歴史博物館、5月）
「THE けんぱく PUNCH 催し物情報」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻230号、p.8、神奈川県立歴史博物館、10月）
「THE けんぱく PUNCH 催し物情報」「パンチの守からのご報告～2025年の催し物振り返り」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻231号、p.8、神奈川県立歴史博物館、2月）

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、
カ その他

(1) 考古資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換
(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	-	1件3点
2	船久保遺跡出土 陥し穴状土坑土層断面剥取り	平成30年4月12日	-	1件1点
合計				2件4点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1F ロビー 地域の文化財に対する啓発	展示	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	1件72点
2	埴輪（円筒）	神奈川県埋蔵文化財センター3階 資料管理閲覧室に常設展示するため	展示	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	1件1点
3	土製頭部破片	横浜市歴史博物館 企画展「君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2025—」 （会期：8月9日～9月7日）に展示するため	展示	令和6年12月25日 ～令和8年9月30日	1件1点
合計					3件74点

(2) 歴史資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換
(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	安西政一郎関係資料	個人	令和7年8月19日	1件55点
2	高道武雄関係資料	個人	令和7年8月19日	1件4点
3	横浜市復興状況 他	個人	令和7年8月19日	1件3点
4	揖斐暢関係資料	個人	令和8年3月24日	33件82点
5	牛久保家関係資料	個人	令和8年3月24日	1件122点
6	長崎剛十郎関係資料	個人	令和8年3月24日	1件1点
7	関東震災荒廃林地復旧事業報告ほか（神奈川県森林再生課旧蔵資料）	神奈川県森林再生課	令和8年3月24日	1件2点
8	鈴木タマ関連資料群（歴史資料）	個人	令和8年3月24日	36件185点
9	《1969-2025》	個人	令和8年3月24日	1件1点
合計				76件 455点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	帝政ロシア製 32 ポンド砲 (旧居留地 90 番出土の大砲)	平成 16 年 2 月 1 日	1 件 1 点
2	長谷川氏所蔵文書	平成 23 年 2 月 17 日	1 件 22 点
3	岩松家文書	平成 25 年 2 月 1 日	210 件 350 点
4	稲葉正則書状 他	平成 30 年 7 月 1 日	2 件 2 点
5	栗木全図 他	令和 5 年 8 月 6 日	2 件 2 点
6	三浦郡関係資料 他 (椎橋文雄氏収集資料)	令和 5 年 11 月 22 日	2 件 405 点
7	密教聖教類	令和 6 年 6 月 1 日	1 件 69 点
8	横浜銀行協会関係資料	令和 6 年 10 月 1 日	1 件 1726 点
合計			220 件 2,577 点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	烏帽子形兜	昭和 43 年 10 月 22 日	-	1 件 1 点
2	古瀬戸瓶子	昭和 45 年 9 月 1 日	-	1 件 1 点
3	関山家文書	昭和 47 年 9 月 8 日	-	1 件 24 点
4	久崎家文書 他	昭和 47 年 9 月 13 日	-	11 件 197 点
5	瀬戸四耳壺 他	昭和 48 年 7 月 1 日	-	3 件 3 点
6	渥美灰釉壺 他	昭和 48 年 10 月 1 日	-	1 件 6 点
7	本多家文書	昭和 49 年 3 月 1 日	-	1 件 953 点
8	嘆願書	昭和 52 年 3 月 23 日	令和 8 年 3 月 31 日	1 件 1 点
9	生麦村新地実測図 (神奈川県令 中島信行宛) 他	昭和 52 年 12 月 1 日	-	1 件 5 点
10	舊荻野山中建物之繪図 他	昭和 53 年 12 月 1 日	-	1 件 19 点
11	寺井家文書	昭和 55 年 2 月 15 日	-	11 件 16 点
12	散弾銃	昭和 55 年 4 月 1 日	-	1 件 1 点
13	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	昭和 58 年 5 月 20 日	-	1 件 1 点
14	平本家文書	昭和 58 年 10 月 14 日	-	1 件 1,309 点
15	黒船来航絵巻	平成 4 年 5 月 15 日	-	1 件 1 点
16	日月鳳凰螺鈿鞍	平成 4 年 11 月 1 日	-	1 件 1 点
17	旧小田原城天守閣模型	平成 5 年 12 月 15 日	-	1 件 1 点
18	辰御年貢可納割付之事 他	平成 6 年 7 月 20 日	-	2 件 2 点
19	享保十四年九月酉之内検見引櫓 他	平成 6 年 10 月 7 日	-	22 件 23 点
20	中国青磁碗 線描き蓮弁文 他	平成 18 年 6 月 1 日	-	1 件 50 点
21	旧横浜正金銀行本店本館改修工 事関係資料	平成 20 年 9 月 1 日	-	1 件 7 点
22	旧横浜正金銀行本店本館彩色立 面図 他	平成 22 年 10 月 15 日	-	1 件 119 点
23	銅造 明治天皇立像 他	平成 23 年 12 月 15 日	-	1 件 3 点
合計				67 件 2,744 点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	北条氏康判物	横浜市歴史博物館 企画展「北条幻庵―横浜・小机城と関東の戦国―」展（会期：11月22日～1月18日）に展示するため 展示資料：6点中3点	展示・保管	令和6年12月26日～ 令和8年3月16日	6件6点
	北条氏政書状（源三殿宛）				
	北条氏政書状（遠山新四郎殿宛）				
	北条氏規掟書				
	船手形朱印状				
	北条氏政書状（治部少輔殿宛）				
合計					6件6点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	松平造酒助江戸在勤日記	個人・調査研究のため	資料 画像 掲出	令和7年9月20日、 21日	1件18点
2	横浜写真アルバム	個人・調査研究のため	資料 画像 WEB 掲載	令和7年12月22日	1件12点
合計					2件30点

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	五姓田義松・渡辺幽香版画下絵群	明治時代	27.2 cm×15.5 cm 他	1件18点
2	仮名手本忠臣蔵図カップ&ソーサー、ミルクポット	明治時代	カップ 磁胎色絵 高4.3 cm 口径9.2 cm ソーサー 磁胎色絵 高1.9 cm 口径13.1 cm ミルクポット 磁胎色絵 高14.6 cm、幅14.3 cm	2件13点
合計				3件31点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換 (寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	芝山宗明関係資料	個人	令和7年12月25日	511件 3,089点
合計				511件 3,089点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	平成17年5月24日	1件1点
2	束帯天神像 他	平成21年4月24日	1件12点
3	厳中周璽賛 渡唐天神像 他	平成21年8月1日	76件88点
4	眞葛焼 (高浮彫南天ニ鶉花瓶 他)	平成22年3月1日	68件131点
5	潘閭図 右都御史筆	平成25年7月2日	1件1点
6	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成27年6月18日	1件63点
7	仁阿弥道八作焼締急須 銘阿治王 他	平成27年6月26日	1件9点
8	一遍他阿真教像 他	平成28年3月25日	6件6点
9	渡辺幽香 山崎勢威子肖像	平成31年3月1日	1件1点
10	絵瀬戸草文輪花皿 他	平成28年6月24日	26件68点
11	近代絵画作品群	平成29年3月1日	37件37点
12	下村観山筆 闘鶏 他	平成29年5月1日	11件15点
13	本多錦吉郎 鍾馗図	平成30年4月1日	1件1点
14	初代五姓田芳柳 婦人像 他	平成31年4月1日	18件21点
15	新生紙パルプ商事株式会社寄託作品	平成31年5月31日	49件55点
16	鐔 奈良利寿作	令和元年11月15日	1件1点
17	蝶耳人物花鳥図香炉 他	令和元年11月15日	5件7点
18	極彩色鳳凰花瓶	令和元年11月15日	1件2点
19	彭城貞徳 海景図	令和2年4月1日	1件1点
20	短刀 (ワーグマン使用)	令和3年3月1日	1件1点
21	井上良斎関係資料	令和3年11月1日	1,139件 1,760点
22	井上良斎陶磁器	令和5年5月27日	17件18点
23	山水図 伝江西龍派筆	令和5年7月25日	1件2点
24	脇差 銘「相州住廣次作」	令和6年7月23日	1件1点
25	金子皓彦コレクション	令和6年8月30日	1件169点
26	伊良保写茶碗	令和6年10月1日	1件1点
27	重要文化財 張良図沈金鞍	令和6年11月20日	1件1点
28	静岡県指定文化財 王の舞面	令和6年12月27日	1件1点
29	井上良斎関係資料	令和7年6月26日	343件 408点
合計			1,812件 2,882点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県指定重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 他	昭和44年3月1日	-	2件17点
2	県指定重要文化財 絹本著色 熊野権現影向図	昭和44年3月1日	-	1件1点
3	県指定重要文化財 絹本著色 両界曼荼羅図 他	昭和44年7月1日	-	25件37点
4	常滑印花文壺 他	昭和48年3月1日	-	11件12点
5	東海道図屏風	昭和49年7月1日	-	1件2点
6	絹本著色 七星如意輪曼荼羅図 他	昭和50年6月1日	-	13件24点

7	横浜浮世絵	昭和52年1月10日	-	1件473点
8	張交屏風	昭和52年7月15日	-	1件2点
9	県指定重要文化財 木造薬師如来坐像	昭和56年2月25日	-	1件1点
10	大小曆コレクション	昭和59年4月1日	-	1件40点
11	鴉図 以天宗清筆 他	昭和63年7月7日	-	2件2点
12	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	-	4件5点
13	本牧風景 他	平成5年6月15日	令和7年8月6日	2件2点
14	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 他	平成7年3月1日	-	8件19点
15	俵藤太絵巻 他	平成12年5月1日	-	2件6点
16	喜多川歌麿 好色十二候 他	平成12年12月20日	-	1件12点
17	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	-	1件2点
18	賀茂真淵筆 伊勢物語古意 他	平成28年9月20日	-	12件20点
合計				89件677点

ウ 修理

No.	資料名	備考	数量
1	短刀	赤羽刀No. 2019、銘「相州住綱廣」	1件1点
2	脇差	赤羽刀No. 3280、銘「相州住康広作」	1件1点
3	刀	赤羽刀No. 2515、銘「相州住広次作」	1件1点
4	刀	赤羽刀No. 2516、銘「広次作」	1件1点
5	脇差	赤羽刀No. 2014、銘「相州住伊勢大掾綱広」	1件1点
6	五姓田義松作品群	五姓田義松《一つ橋》ほか	1件16点
7	田村宗立 東山暮雪図		1件1点
合計			7件22点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	薬師如来坐像 保木薬師信徒会所蔵（当館借用資料）	横浜市歴史博物館 長期休館にともなう一時保管のため	保管・展示	令和6年12月3日～ 令和8年11月30日	1件1点
2	草花禽虫写生図巻（卷子）1巻 小下画集（卷子）1巻 小下画集（卷子）1巻 印譜（卷子）1巻 意馬心猿図（軸）1幅 山水図断片、女性頭部の図ほか（封筒入り、マクリ）6点 双六（軸）1幅 西行（軸）1幅 画稿貼込帳（冊子）1冊 滞欧期スケッチブック（冊子）1冊 図案集（和綴本）1冊 スクラップブック（冊子）1冊 和田英作《下村観山肖像》（額）1点	東京国立近代美術館 和歌山県立近代美術館 企画展「下村観山展」（会期：東京国立近代美術館令和8年3月17日～5月10日、和歌山県立近代美術館5月30日～7月20日）に展示するため 展示資料：154件中22件	展示・調査および研究、撮影	令和6年12月11日～ 令和8年3月16日	154件154点 他

2	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻一」(冊子) 2 分冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻二」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻三」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻四」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻五」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻六」(冊子) 1 冊			
	模本「熊谷直彦筆『日光地取』巻七」(冊子) 1 冊			
	斎藤千代氏婚礼時の写真(二つ折りの台紙に貼付) 1 点 (当館寄託資料)			
	大礼服写真(デュープ) 1 点			
	筆 一式			
	刷毛 一式			
	木炭 一式			
	硯 1 点			
	筆洗(正方形、木製蓋と目録付) 1 点			
	粉絵具 一式			
	すり石棒 一式			
	絵具溶き皿 一式			
	アーサー・モリソンより受贈の印(朱肉、箱付) 一式			
	観山ロンドンより母上に送りし便(マクリ) 1 点			
	依頼美術審査委員会委員被免辞令(大正 3 年 8 月 22 日)(封筒入り) 1 点			
	留学申報書(封筒入り) 2 点			
	東京美術学校教授任命状(明治 34 年 9 月 20 日)(封筒入り) 1 点			
	留学出発辞令(封筒入り) 1 点			
	文部省外国留学生表ほか(封筒入り) 一式			
	留学始末書草稿(複数枚綴、封筒入り) 1 点			
	明治神宮奉賛会壁画調整委員任命辞令(大正 12 年 8 月 18 日)(封筒入り) 1 点			
	常会優等賞札(封筒入り) 2 点			
	東京美術学校日本画家第三年担任任命書(明治 35 年 1 月 31 日)(封筒入り) 1 点			

2	助教授依頼免官辞令（明治31年6月4日）（封筒入り）1点			
	辞職御願（明治31年3月26日）（封筒入り）1点			
	写生帳／日本美術史講義ノート断片（封筒入り、冊子）1冊			
	日本美術院規則（封筒入り、冊子）4冊			
	下絵（白狐ほか）（封筒入り、マクリ・綴じ本）一式			
	観山大礼服写真（封筒入り、台紙貼付）1点			
	観山写真 晩年か（封筒入り、台紙貼付）1点			
	院葬の辞（木村武山）（封筒入り）1点			
	名刺類、欧州旅行中の切符、領収書等（封筒入り）一式			
	日本美術院組合契約書（封筒入り、綴じ本）1冊			
	借用証（清水源泉堂、孚水画廊より下村観山）（封筒入り）1点			
	観山画会会則 足利 下村観山画会（封筒入り）1点			
	浮世絵展覧会依頼 大隈伸常より下村観山（封筒入り）1点			
	天心書簡集（卷子）1巻			
	天心芳墨集（卷子）1巻			
	英国留学任命書 文部大臣菊池大麓より下村観山（封筒入り）1点			
	旅券			
	任命書 東京美術学校助教授（明治27年3月6日）（封筒入り）1点			
	第一回文展審査委員任命書（明治40年8月13日）（封筒入り）1点			
	免官書 東京美術学校教授（明治41年8月29日）（封筒入り）1点			
	死後の後始末につき口上書（？）（封筒あり、綴り紙）1点			
	書簡 川端龍子より下村観山宛（封筒あり）1点			
	誰が袖図裂地貼付屏風（仮）（屏風・四曲一隻）1点			
	茶封筒入り観山関係資料 封筒記載番号1～9			

2	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 11～13				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 15				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 17～18				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 20～22				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 24				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 26				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 28～45				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 47～49				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 51～58				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 60～74				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 303				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 307～310				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 334				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 338				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 341				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 352				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 354～361				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 363～365				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 379				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 396				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 398				
	茶封筒入り観山関係資料 封筒 記載番号 405～407				
3	長崎青貝細工ビューロー（当館 寄託資料）	箱根ガラスの森美術館 企画展「煌めきの競演 ガラス と貝細工、神秘の色彩」（会期； 令和7年7月18日～令和8年1 月12日）に展示するため	展示 ・ 保管	令和6年12月23日～ 令和8年1月12日	5件5点
	青貝細工手元筆筒（当館寄託資 料）				

3	長崎青貝細工花蝶図箱（当館寄託資料）				
	横浜青貝細工 花鳥図額一対（当館寄託資料）				
	横浜芝山漆器花蝶図飾盆（当館寄託資料）				
4	五姓田一家之図	横浜美術館 企画展「おかえり、ヨコハマ」（会期：令和7年2月8日～6月2日）に展示するため	展示・保管	令和6年12月25日～ 令和8年10月31日	3件3点
	渡辺幽香像				
	老母図				
5	和装姿の米婦人	横浜市歴史博物館 企画展「横浜絵（仮）」展（令和8年度）にかかる共同調査研究のため	資料の調査撮影	令和6年12月26日～ 令和8年3月16日	16件36点
	国府台風景図屏風				
	嘉兵衛義孝肖像				
	鶴沢作次郎肖像				
	賀来夫妻像				
	西脇清十郎像				
	山内市郎治				
	街道				
	西洋老婦人図				
	井田譲像				
	寸陰漫稿				
	五姓田義松・渡辺幽香版画下絵群				
	高浮彫南天ニ鶉花瓶（当館寄託資料）				
	高浮彫群鳩飛来花瓶（当館寄託資料）				
	高浮彫葡萄ノ蔓ニ蜂ノ巣花瓶（当館寄託資料）				
	高浮彫風神雷神花瓶（当館寄託資料）				
高浮彫長命茸採取花瓶（当館寄託資料）					
合計					179件199点他

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	箱根権現縁起絵巻（当館借用資料）	個人・複製（レプリカ）作成のため	デジタルデータ利用	令和7年12月4日～ 令和8年2月28日	1件2点

2	狩野探幽 四季耕作図屏風	個人・調査研究のため	資料 画像 報告 書掲 載	令和8年3月9日	2件3点
	前島宗祐 四季耕作図屏風				
3	本間紀男氏仏像修理関係資料 (本間資料) 明月院(鎌倉市) 聖観音菩薩坐 像 像内墨書銘 写真	出版社・資料集刊行のため	写真 の書 籍掲 載	令和8年3月9日～ 令和8年3月30日	1件3点
合計					4件8点

(4) 民俗資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	鈴木タマ関連資料群	個人	令和8年3月3日	82件92点
2	お歯黒の道具	個人	令和8年3月3日	1件1点
合計				83件93点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ 他	平成27年5月14日	2件3点
合計			2件3点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	お食初め膳 他	昭和46年10月23日	-	1件3点
2	燭台	昭和47年3月6日	-	1件1点
3	長持 他	昭和47年3月6日	-	1件2点
4	天狗の面 他	昭和48年2月27日	-	1件3点
5	帳場格子 他	昭和48年3月2日	-	1件15点
6	結納樽	昭和48年4月1日	-	1件1点
7	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	-	1件3点
8	鏡台と鏡 他	昭和49年4月26日	-	1件5点
9	獅子頭 他	昭和54年3月1日	-	1件11点
10	婚礼用具	昭和54年3月1日	-	1件2点
11	足踏み脱穀機 他	平成6年4月15日	-	2件2点
12	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	-	1件22点
合計				13件70点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用 方法	利用期間	数量
1	庚申講掛軸	個人・調査研究のため	資料 画像 WEB 掲載	令和8年2月1日	1件1点
2	庚申塔 角柱笠付型	個人・調査研究のため	熟覧 計測 撮影	令和8年3月1日	4件4点
	庚申塔 駒型				
	庚申塔 駒型				
	石造地藏菩薩像				
合計					5件5点

(5) 写真資料

令和7年度写真撮影資料

ア 特別展図録用

入門！神奈川県立歴史博物館 県博の守り伝えていくコレクション
昭和100年 神奈川けんぱく60年のあゆみ

イ コレクション展示用

なし

ウ その他

当館所蔵資料、文化財保護ポスター 他

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には“予防”の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。展示室等の空気改善に向けて、空気質環境調査を実施した。本年度11月には館蔵資料および新収蔵資料等を外部燻蒸庫に輸送しアルプによる殺カビガス燻蒸を行った。

(7) その他資料の利用

ア 図書

令和7年度図書資料の状況は次のとおりである。全国の博物館・美術館等からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	受入			除籍数	総数	ライブラリー公開数
	購入	寄贈	合計数			
図 書(冊)	0	431	431	10	24,604	4,949
図 録(冊)	0	490	490	3	19,946	924
埋蔵文化財発掘調査報告書	0	2,288	2,288	0	5,713	0
逐次刊行物(タイトル)	24	19	—	6	2,616	83

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。誌名変更等による新規書誌作成分を含む。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム132,984件とデジタルカメラデータ54,512件を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出を行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	17	14	10	17	17	14	14	13	16	11	14	9	166
点数	30	17	17	39	22	26	21	21	30	17	39	24	303

ウ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- a 学習の支援
- b 高度な知的ニーズへの対応
- c 博物館活動の活性化、効率化
- d 研究活動の高度化

(a) 各種アプリケーションの利用

(b) 博物館が所有する情報の活用

e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）

(a) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター

(b) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点

(c) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

a システム基本設計・詳細設計 平成5年度

b システム運用開始 平成7年度

c システム更新 平成13、18、23、28年度、令和4年度

(ウ) 稼動しているシステム

a 展示情報システム（デジタルミュージアム）の内容

ミュージアムライブラリーに設置された2台の来館者用端末とWebページで提供している（No2

絵馬、No5 水墨画、No.12 収蔵コレクションは、来館者用端末のみで提供）。一部資料については高精細拡大画像も提供している。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約7,000点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した230点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など125点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料70点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から50点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見る事が可能。
5	水墨画	平成10年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品85点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料221点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜のやきものの中から46点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から32点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに118点を紹介。

10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記（1件5冊）を紹介。拡大画像により、細部まで見る事が可能。
11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」（17職種1,982点）のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古 206点、中世文書 96点、彫刻 14点、中世絵画 80点、 浮世絵 288点、近代歴史資料 260点、近代絵画 156点、民俗 306点
計 2,722点		

b デジタルアーカイブの内容

収蔵資料管理システムに登録されている当館所蔵資料のデータベースを、当館HPで検索・閲覧できるように令和4年10月より公開。令和8年3月末現在で約50,300件の収蔵資料情報を公開している。

c 業務システムの内容

- (a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能
- (b) 図書システム：蔵書の登録管理機能、蔵書情報の検索機能

(e) システム構成

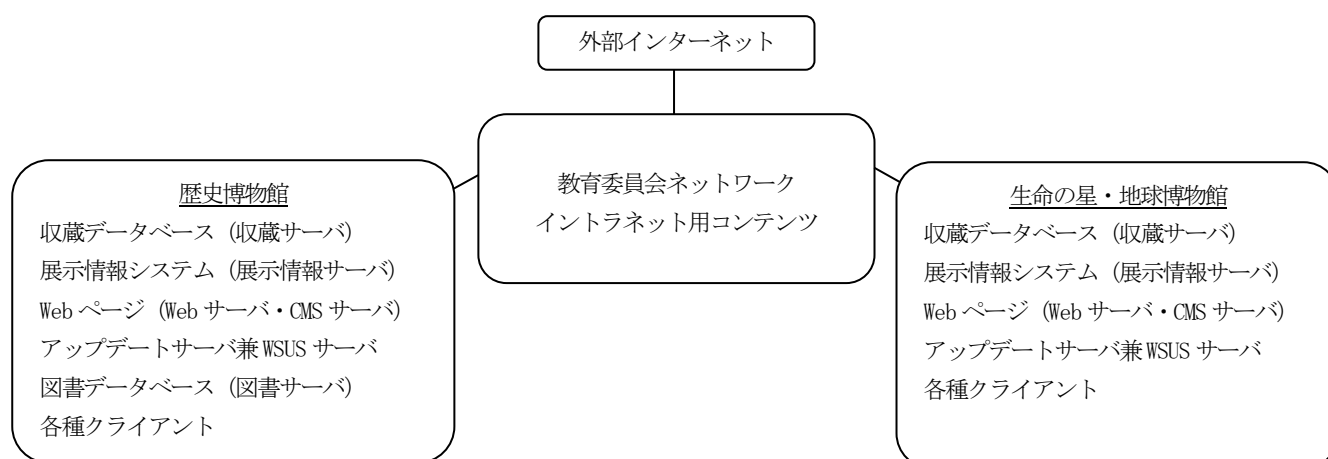
a 概要

館内LAN及び広域イーサネットを利用したサーバクライアントシステム

b 設置機器

- (a) サーバ室
ファイルサーバ等
- (b) ミュージアムライブラリー
来館者用パソコン、レファレンス用パソコン
- (c) 保存修復処置室／印刷室
画像入力用パソコン
- (d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書整理室・写真整理室・写場
各室作業用パソコン

(f) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) ホームページアクセス件数 (再掲)

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	259,752	607,989	365,079	259,415	383,411	304,324	393,136	359,468	370,842	329,718	295,813	345,652	4,274,599

参考 (内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	850	959	966	1,014	818	848	899	1,002	992	864	732	827	10,771
デジタル アーカイブ	7,589	9,562	7,158	6,571	6,642	20,822	6,849	7,892	8,970	9,124	8,612	6,288	106,079

5 展示・教育普及・学習支援・他機関との連携

(1) 総合テーマ展示 (常設展)

ア 常設展の概要

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は展示事業を一時休止。

イ 常設展の展示替えと「トピック展示」の実施

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は展示事業を一時休止。

ウ 展示ガイド (ポケット学芸員/手話動画)

スマートフォン用の展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入し、常設展および特別展で活用している。音声4言語 (日本語・英語・中国語・韓国語)、文字5言語 (日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語) 及び画像による解説をしている。常設展の日本語・英語の音声解説は県内の高校生がナレーションをしており、令和5年度には、日本語の音声解説に新項目を追加した。

また、神奈川県立平塚盲学校と連携し、視覚障がいのある方がイメージを喚起しやすい文字解説を作成して、その文字解説を放送部に所属する県内の高校生が読み上げる音声解説を提供している。

(2) 特別展

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は展示事業を一時休止。

(3) コレクション展

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は展示事業を一時休止。

(4) その他の展示

ア 共催

- (ア) 題 名: 特別展「初三郎式、かながわの描き方—地球表現の科学—」
 会 期: 7月19日 (土) ~ 11月9日 (日)
 主 催: 神奈川県立生命の星・地球博物館

- (イ) 題 名: 企画展「柏木御厨と山中氏—水利が刻む中世の歴史と景観—」
 会 期: 令和8年1月21日 (水) ~ 3月8日 (日)
 主 催: 甲賀市水口歴史民俗資料館

イ 特別協力

- (ア) 題 名: 企画展「君も今日から考古学者! 横浜発掘物語 2025 夏休み展」
 会 期: 8月9日 (土) ~ 9月7日 (日)
 主 催: 横浜市歴史博物館

- (イ) 題 名：企画展「北条幻庵―横浜・小机城と関東の戦国―」
 会 期：11月22日（土）～令和8年1月18日（日）
 主 催：横浜市歴史博物館
- (ウ) 題 名：企画展「下村観山展」
 会 期：令和8年3月17日（火）～5月10日（日）
 主 催：東京国立近代美術館

(5) 教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。一年を通して休館した令和7年度は館外の会場で講座を行ったほか、他の市町村・団体と共催した講座も行った。

ア 県立社会教育施設公開講座

生涯学習課主管の有料の連続講座（各回1,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回単独受講可能）

県博セミナー「錦絵に描かれた歌舞伎」

会場：神奈川近代文学館ホール

（定員120名 応募者288名〈単回を含む事前申込者〉、13:30～15:30）

概 要：浮世絵の研究者や義太夫の演奏者を講師に招き、歌舞伎を描いた浮世絵に関する学びの場を提供した。

- ・第1回 令和8年2月1日（日）（受講者78名）
 「役者絵を読み解く―人気役者のプロマイドとしての役割―」
 神奈川大学准教授 藤澤 茜 氏
- ・第2回 令和8年2月8日（日）（受講者58名）
 「浄瑠璃と歌舞伎絵―描かれた世界を聴く―」
 女流義太夫 太夫 竹本 土佐子 氏、女流義太夫 三味線 鶴澤 津賀花 氏
- ・第3回 令和8年2月15日（日）（受講者73名）
 「名所絵と歌舞伎―神奈川県域ゆかりの物語―」
 企画普及課長・学芸員 桑山 童奈

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

イ ミュージアムトーク「今月の逸品」

常設展展示資料より毎月逸品をピックアップし、展示室内で学芸員が解説を行うもの。

※展示室内の混雑緩和および令和7年1月7日以降は休館のため、ウェブサイトのみでの展開とし、詳しい解説を掲載した。

掲載月	逸品テーマ	解説者
4	修復報告：初代五姓田芳柳《西洋老婦人像》《井田譲像》	角田 拓朗
5	ハニワのファッションから何がわかるか？	佐藤 兼理
6	神奈川県立博物館の開館	武田 周一郎
7	堆朱蓮華文方盆	鈴木 愛乃
8	相模国津久井県与瀬村名主・問屋役坂本家文書 与瀬宿絵図	寺西 明子
9	一遍上人像	樋口 美咲
10	大型化した裁許絵図	根本 佐智子
11	眞葛焼 釉下彩山水図香炉	小川 咲良
12	ルビコン川を渡る	嶋村 元宏
1	落合芳幾の画業	山口 希
2	海の仕事着	三浦 麻緒
3	調査する行員たち―横浜正金銀行の『調査報告』―	大藪 佳純

ウ その他の行事

(ア) 講演会（無料）

a 「錦絵にみる明治人名録」

概 要：浮世絵に描かれた歌舞伎役者、政府高官などを見ながら明治の錦絵を読み解いた。

開催日：4月15日（火）13:30～15:00（定員50名 応募者98名 受講者51名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：企画普及課長・学芸員 桑山 童奈

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

b 「「民権家」って、どんな人？ ―自由民権運動の担い手の実像に迫る」

概 要：民権家とはどのような人を指すのか、また人々が抱くイメージや実像について紹介した。

開催日：5月20日（火）13:30～15:00（定員40名 応募者91名 受講者38名）

会 場：かながわ県民センター 305会議室

講 師：町田市立自由民権資料館 非常勤学芸員 山下 春菜 氏

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

c 「陶磁器・漆器産地としての横浜」

概 要：当館の所蔵品を中心に工芸産地としての横浜を紹介した。

開催日：5月30日（金）13:30～15:00（定員50名 応募者85名 受講者42名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：学芸員 鈴木 愛乃

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

d 「日記にみる江戸時代の食」

概 要：当館所蔵資料を題材に、庶民や武士の食事について解説した。

開催日：6月7日（土）13:30～15:30（定員60名 応募者134名 受講者57名）

会 場：神奈川県立公文書館 大会議室

講 師：学芸員 寺西 明子、非常勤学芸員 根本 佐智子

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

e 「横浜山手の画家 ワーグマン」

概 要：チャールズ・ワーグマン作品の魅力や、描かれた幕末明治前期の横浜の様子を紹介した。

共 催：公益財団法人横浜市緑の協会（山手西洋館）

開催日：6月28日（土）13:30～15:00（定員50名〈先着順〉 受講者46名）

会 場：横浜市イギリス館

講 師：主任学芸員 角田 拓朗

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

f 「日本中世史のフィールドワーク最前線!!」

概 要：歴史学と民俗学の学芸員が現地調査の方法や魅力、課題について語り合った。

開催日：7月12日（土）14:00～16:00（定員60名 応募者103名 受講者52名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：甲賀市教育委員会 佐野 正晴 氏、学芸員 渡邊 浩貴

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

g 「神奈川県立歴史博物館の戦争資料」

概 要：戦中から戦後間もない頃の暮らしの諸相について、資料を通じて紹介した。

開催日：7月31日（木）13:30～15:00（定員60名 応募者103名 受講者54名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：学芸員 武田 周一郎

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

h 「南関東地方の湯立神楽」

概 要：湯立神楽の事例について解説し、その個別の見どころと相違点をそれぞれ解説した。

開催日：8月29日（金）10:30～12:00（定員60名 応募者94名 受講者53名）

会 場：かながわ県民センター 301 会議室

講 師：主任学芸員 新井 裕美

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

i 「幕末の国際情勢認識を探る—『オランダ別段風説書』をとおして「鎖国」を考える」

概 要：『オランダ別段風説書』の共同研究を進めてきた6名が最新の研究成果を紹介した。

開催日：9月14日（日）13:00～16:30（定員120名 応募者211名 受講者100名）

会 場：かながわ県民センター ホール

講 師：青山学院大学教授 割田 聖史 氏、元青山学院高等部教諭 佐藤 隆一 氏

開成高等学校教諭 松本 英治 氏、東洋大学教授 岩下 哲典 氏

青山学院大学教授 岩田 みゆき 氏、主任学芸員 嶋村 元宏

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

j 連携講座 第1回「地図で楽しむ近現代の藤沢」

概 要：近現代の藤沢とその周辺地図、特に「神奈川県鳥瞰図」に描かれた名所などを紹介した。

共 催：藤沢市藤澤浮世絵館

開催日：10月11日（土）10:30～12:00（定員55名〈先着順〉 受講者52名）

会 場：藤沢市辻堂市民図書館 2階ホール

講 師：学芸員 武田 周一郎

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

k 「吉田初三郎の鳥瞰図を語る」

概 要：生命の星・地球博物館の特別展にあわせ、歴史・地学・美術の観点から鳥瞰図を語った。

共 催：生命の星・地球博物館

開催日：10月13日（月・祝）13:00～15:00（定員70名 応募者83名 受講者68名）

会 場：生命の星・地球博物館 講義室

講 師：府中市美術館学芸員 大澤 真理子 氏、生命の星・地球博物館主任学芸員 新井田 秀一、

学芸員 武田 周一郎

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

l 「近代横浜 輸出美術の魅力」

概 要：近代横浜の絵画や工芸品の輸出の実態を、海外の事例も含めて紹介した。

開催日：10月23日（木）14:00～15:30（定員50名 応募者75名 受講者43名）

会 場：かながわ県民センター 301 会議室

講 師：主任学芸員 角田 拓朗

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

m 「明治横浜の輸出陶磁器」

概 要：明治横浜で制作・輸出された眞葛焼や、関内地区にあった陶磁器店について紹介した。

開催日：11月7日（金）13:30～15:00（定員45名 応募者52名 受講者45名）

会 場：かながわ県民センター 301 会議室

講 師：非常勤学芸員 小川 咲良

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

n 連携講座 第2回「庶民が見た黒船来航」

概 要：庶民が黒船来航をどのように捉えていたのか「鈴木藤助日記」から紹介した。

共 催：藤沢市藤澤浮世絵館

開催日：11月15日（土）10:30～12:00（定員55名〈先着順〉 受講者53名）

会場：藤沢市辻堂市民図書館 2階ホール

講師：学芸員 寺西 明子

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

o 「近代日本の石材産業と石材企業家 土屋大次郎」

概要：幕末から明治の石材産業と神奈川県出身の石材企業家・土屋大次郎の活動を紹介した。

開催日：11月27日（木）13:30～15:00（定員60名 応募者65名 受講者59名）

会場：日本丸メモリアルパーク 訓練センター第1・2会議室

講師：学芸部長 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

p 「暮らしの中の講」

概要：藤沢市遠藤のエビス講資料を手がかりに、暮らしに根づいた講の様子を解説した。

開催日：12月5日（金）10:30～12:00（定員50名 応募者50名 受講者43名）

会場：かながわ県民センター 301会議室

講師：非常勤学芸員 三浦 麻緒

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

q 「北条家朱印状の謎に迫る！」

概要：北条家朱印状について解説後、その目的と様式の相違について類例と比較し考察した。

開催日：12月6日（土）13:30～15:00（定員80名 応募者68名 受講者55名）

会場：神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）多目的ホールA面

講師：学芸員 梯 弘人

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

r 連携講座 第3回「進化する浮世絵-芳幾・清親を中心に」

・アフタートーク浮世絵鼎談「幕末の浮世絵とかながわ」

概要：幕末明治期に活躍した絵師、落合芳幾と小林清親の作品を中心に解説した。

共催：藤沢市藤澤浮世絵館

開催日：12月13日（土）10:30～12:00（定員55名〈先着順〉 受講者50名）

会場：藤沢市辻堂市民図書館 2階ホール

講師：非常勤学芸員 山口 希、企画普及課長 桑山 童奈、藤沢市藤澤浮世絵館学芸員 中川 淑子 氏

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

s 連携講座 第4回「すごろくで旅気分-江戸庶民の楽しみ方」

概要：東海道などの宿場をコマで進む道中双六の種類や当時の旅について紹介した。

共催：藤沢市藤澤浮世絵館

開催日：令和8年1月12日（月・祝）10:30～12:00（定員55名〈先着順〉 受講者52名）

会場：藤沢市辻堂市民図書館 2階ホール

講師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

t 「かながわの正月」

概要：神奈川県内で行われている大正月と小正月の行事について詳しく解説した。

開催日：令和8年1月18日（日）13:30～15:00（定員60名 応募者69名 受講者58名）

会場：日本丸メモリアルパーク 訓練センター第1・2会議室

講師：主任学芸員 新井 裕美

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

u 「横浜の仏像を知る！ 一身近なみほとけたちをハッケンしよう」

概 要：横浜市に伝わる仏像について神奈川県と横浜市の博物館の彫刻担当学芸員が解説した。

共 催：横浜市歴史博物館

開催日：令和8年2月21日（土）13:30～15:30（定員180名 応募者248名 受講者149名）

会 場：横浜市歴史博物館 講堂

講 師：横浜市歴史博物館学芸員 花澤 明優美 氏、主任学芸員 神野 祐太

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

v 「描かれた箱根権現縁起の世界」

概 要：箱根権現縁起絵巻に描かれた特色ある信仰の様子を紹介した。

開催日：令和8年2月27日（金）13:00～15:00（定員50名 応募者135名 受講者46名）

会 場：かながわ県民センター 301 会議室

講 師：昭和女子大学非常勤講師 阿部 美香 氏、任期付学芸員 樋口 美咲

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

w 「江戸時代の巨大絵図」

概 要：神奈川県内に残る裁許絵図を紹介し、その特徴と描かれた当時の景観について解説した。

開催日：令和8年3月12日（木）13:30～15:00（定員60名 応募者134名 受講者50名）

会 場：神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）5・6・7 会議室

講 師：非常勤学芸員 根本 佐智子

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

x 「進化する浮世絵」

概 要：当館丹波コレクションから幕末明治期の絵師の作品を取り上げ、その魅力を解説した。

開催日：令和8年3月20日（金・祝）13:30～15:00（定員80名 応募者127名 受講者66名）

会 場：神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）多目的ホールA 面

講 師：非常勤学芸員 山口 希

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

(イ) 見学会（無料）

a 建物見学会「石材から探る横浜の近代建築」

概 要：石材建材を軸に、みなとみらい周辺の近代建築・近代化遺産を見学した。

開催日：4月25日（金）13:30～15:30（定員20名 応募者135名 受講者17名）

会 場：当館周辺地域

講 師：学芸部長 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

b 講演会&見学会「職人が語る！横浜家具づくり四方山ばなし」

概 要：横浜家具について学芸員と家具職人が対談し、実際に家具を見学した。

開催日：9月27日（土）13:30～15:30（定員30名〈先着順〉 受講者35名）

会 場：ブラフ18 番館

講 師：蓮華草元町工房 内田 勝人 氏、学芸員 鈴木 愛乃

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

c 現地見学会「伊勢原・日向薬師の仏像」

概 要：伊勢原市・宝城坊（日向薬師）の仏像彫刻を中心とした見学を行った。

開催日：10月16日（木）13:15～15:15（定員20名 応募者39名 受講者18名）

会 場：高野山真言宗 日向山 宝城坊 日向薬師

講 師：主任学芸員 神野 祐太

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

d 講演会・現地見学会「太古の横浜水田探訪」

概 要：弥生時代のかながわの稲作農耕について紹介後、「舞岡弥生田んぼ」の様子を観察した。

開催日：10月31日（金）10:00～12:00（定員20名 応募者31名 受講者15名）

会 場：舞岡公園 小谷戸の里

講 師：山形大学准教授 白石 哲也 氏、学芸員 佐藤 兼理

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

(ウ) 古文書講座（無料）

「日記にみる江戸時代の食」

概 要：当館所蔵の古文書から“食”を題材にくずし字を読みといた。

開催日：7月5日（土）13:30～15:30（定員50名 応募者129名 参加者47名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：学芸員 寺西 明子、非常勤学芸員 根本 佐智子

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(エ) 館長トーク（無料）

a 「田中休愚と酒匂川改修」

概 要：酒匂川の改修工事を幕府から命じられた田中休愚の人物像と工事の内容を紹介した。

開催日：6月13日（金）13:30～15:00（定員50名 応募者98名 受講者52名）

会 場：かながわ県民センター 301会議室

講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

b 「象、多摩川を渡る！」

概 要：享保13年に渡来した象が江戸への旅でどのように渡河したか紹介した。

共 催：東海道かわさき宿交流館

開催日：9月19日（金）13:30～15:00（定員60名 応募者99名 受講者55名）

会 場：東海道かわさき宿交流館 第1・第2集会室

講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

c 「旅日記からかながわの名所をさぐる」

概 要：江戸時代の旅人が神奈川県内でどのような名所をめぐり楽しんでいたのか解説した。

開催日：12月12日（金）10:30～12:00（定員45名 応募者76名 受講者39名）

会 場：かながわ県民センター 304会議室

講 師：館長 望月 一樹

※普及担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

(オ) ミュージアムコンサート

令和7年度は休館のため実施せず。

(カ) 無料観覧日

令和7年度は休館のため実施せず。例年は、地元の馬車道商店街が主催する「馬車道まつり」に合わせた「文化の日」及び当館の前身である神奈川県立歴史博物館の開館（1967年3月20日）を記念し「春分の日」前後に、特別展及び常設展の無料観覧と通常非公開の屋上ドーム・通称「エースのドーム」の特別公開などを実施している。

(キ) けんぱくトークフェス ―学芸員が語る逸品―

概 要：令和8年10月の再開館後に展示予定の古代から現代にわたる収蔵資料の中から当館の学芸員15人が選りすぐった逸品の魅力をリレー形式でコンパクトに紹介した。

	タイトル	けんぱくの逸品（収蔵資料）名	発表者(学芸員)
1	洞窟の考古学	間口洞穴出土資料	佐藤 兼理
2	県博の仏像入門！	菩薩坐像（附五臓六腑） 阿弥陀如来坐像 阿弥陀如来立像	神野 祐太
3	怒りの美術 県博の北野天神縁起絵巻	北野天神縁起絵巻	樋口 美咲
4	神奈川県内で秀吉が書いた手紙	豊臣秀吉書状	梯 弘人
5	武士の絵日記	松平造酒助江戸在勤日記	根本 佐智子
6	悪口の古文書学	鈴木藤助日記他	寺西 明子
7	輸出された浮世絵	大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖より 輸出錦絵	角田 拓朗
8	対談 美術に見る人力車 浮世絵と工芸品から	横浜写真アルバム 大川岸一之橋遠景	鈴木 愛乃 山口 希
9	横浜から世界へ 宮川香山の眞葛焼	山水之図花瓶 眞葛窯香山製	小川 咲良
10	疫病退散！	疱瘡除けの呪具	新井 裕美
11	絵馬に願いを！	小絵馬コレクションより男拝み図	三浦 麻緒
12	オランダからの通商条約草案	咬嚙吧都督職筆記和解・ 甲必丹差出候封書和解	嶋村 元宏
13	調査する行員たち 横浜正金銀行の海外勤務	横浜正金銀行のはがき（安西政一郎 関係資料）	大藁 佳純
14	60年前にタイムスリップ 馬車道と博物館	神奈川県立博物館開館アルバム	武田 周一郎
15	スペシャルトーク 地域について考える		館長 望月 一樹

協 力：関内ホール

開催日：令和8年3月7日（土）10:00～16:00（最大着席可能数 260 席、申込不要・入退場自由、
来場実人数 305 人）

会 場：関内ホール 小ホール

エ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアム・ミッション 2025

2003 年からはじまった地域連携イベントが元になっており、みなとみらい・関内・山手地区にある博物館を巡っていく、夏休み子ども向け事業。クイズ等の課題（ミッション）をクリアしながら現地を巡ることで、博物館に親しむ機会を創出することをねらいとしたもの。令和7年度は休館のため、WEB 上でおまけミッションを出題した。

開催期間：7月19日（土）～ 8月31日（日）

参加者数：延べ4,733名

開催館園：（11 館）大佛次郎記念館、県立神奈川近代文学館、JICA 横浜 海外移住資料館、シルク博物館、ニュースパーク（日本新聞博物館）、野毛山動物園、放送ライブラリー、三菱

みなとみらい技術館、横浜税関資料展示室「クイーンのひろば」、横浜人形の家
※当館はWEB上で参加

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(イ) おうちでかながわけんぱく

新型コロナウイルス感染症の影響による休校等でおうち時間が増えた子どもたちが楽しめるよう、令和2年4月下旬にホームページ上に新たに開設した子ども向けWEBコンテンツ。当初は子どもを対象としていたが、大人も楽しめるようなコンテンツや、実際の展示の内容とも関連するコンテンツも作成する等、WEBだけで楽しむのではなく、来館にもつながるような内容になるよう工夫している。

令和7年度は11月に「手話動画でたのしむかながわけんぱく」6件を追加した。

閲覧数：44,951回

(ウ) 中・高・大学生向け講座（無料）

a 高校生・大学生対象 測量船見学会「海上保安庁の測量船で知る海の防災」

概 要：海上保安庁海洋情報資料館を見学後、測量船「昭洋」の解説を聞き外観を見学した。

協 力：海上保安庁

開催日：5月31日（土）10:00～12:00（定員30名 応募者25名 受講者22名）

会 場：海上保安庁海洋情報資料館、東京国際クルーズターミナル（測量船「昭洋」停泊地）

講 師：海上保安庁第三管区海上保安本部海洋情報部監理課 栗原 恵美 氏

学芸員 武田 周一郎

※担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

b 中高生対象 古文書講座「古文書を『読み解いて』みよう～北条家朱印状を題材として～」

概 要：北条氏朱印状を題材に書かれた内容や時代背景を解明するための方法について学んだ。

協 力：鎌倉学園高等学校

開催日：7月29日（火）①10:30～12:00、②13:30～15:00

（定員20名 応募者57名 受講者 ①20名・②26名）

会 場：鎌倉学園中学校・高等学校 校舎棟2階 社会科教室2

講 師：学芸員 梯 弘人

※担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

c 高校生浮世絵講座「浮世絵で江戸時代の観光を知る」

概 要：藤沢市藤澤浮世絵館の展示を解説付きで見学後、2色木版画の摺り体験を行った。

共 催：藤沢市藤澤浮世絵館

開催日：8月5日（火）13:30～15:30（定員10名 応募者8名 受講者6名）

会 場：藤沢市藤澤浮世絵館 多目的室

講 師：藤沢市藤澤浮世絵館学芸員 益田 亮助 氏、企画普及課長・学芸員 桑山 童奈

※担当：非常勤学芸員 金子 あゆみ

d 大学生向け「刀剣入門講座」

概 要：刀剣のつくりや、学芸員が行う刀剣の手入れについて解説した。

開催日：8月22日（金）13:00～15:00（定員20名 応募者18名 受講者16名）

会 場：かながわ県民センター 301 会議室

講 師：刀剣研師 小野 敬博 氏、学芸員 渡邊 浩貴

※担当：非常勤学芸員 宮崎 未来

(エ) 親子向けワークショップ（無料）

「お手玉づくり」

概 要：お手玉の歴史や作り方を紹介し参加者と一緒に実際にお手玉を作成して遊ぶ体験をした。

協 賛：公益財団法人 よこはまユース

開催日：令和8年1月24日（土）13:30～15:30（定員10組20名 応募者24名 参加者11名）
 会場：横浜市青少年育成センター 第1研修室
 講師：非常勤学芸員 三浦 麻緒

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

オ 学校連携事業の状況

(ア) 設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度中は学校利用を休止している。

(イ) 教員、児童・生徒に向けた資料等の提供

例年は、小・中学生向けの「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」と、小学校及び中学校教員向けの「歴史学習に対応した主な展示資料」を引き続きホームページに掲載しており、下見に来館した教員へ配付するなど、展示の内容を紹介する資料として活用している。また、「高校生インターンシップ」・「中学生職業体験」を実施し、博物館活動の体験機会を提供している。

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度中は教員の下見受入及び博物館活動の体験機会の提供は休止している。

(ウ) ワークシートの作成と活用

児童・生徒向けに「けんぱく見学シート」、「けんぱくクイズ」、「けんぱくミッション」をホームページに掲載し提供している。展示替えがあればその都度ワークシートは更新をしている。

(エ) 教員対象の講座の実施

令和6年度に神奈川県教員研修体系が変更され、『他機関、連携大学等の研修講座』に位置づけられた「教員のための博物館講座」を実施した。

日時 8月8日（金）13:15～16:30 参加者16名

会場 県立総合教育センター 207 研修室

- ① 講義「学校と歴史博物館との連携について」
- ② ワークショップ「鎌倉遠足のふかーい楽しみ方 ―仏像編―」
- ③ 協議「学校との連携を深めるにあたって歴史博物館に望むこと」

(オ) 出張講座

平成28年の休館をきっかけに、学校連携の一環として開始した、学芸員が講師となり県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をする「出張講座」を実施した。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年 授業時限数 受講者数
5月20日 (火)	湘南白百合学園中学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く様々な職種の職員や学芸員の仕事について実体験に基づき紹介した。	学芸員 鈴木 愛乃	中2 1時限 193名
5月30日 (金)	藤沢市立羽鳥小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 3時限 150名
6月4日 (水)	座間市立立野台小学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く様々な職種の職員や学芸員の仕事について実体験に基づき紹介した。	学芸員 鈴木 愛乃	小6 2時限 114名

6月26日 (木)	秦野市立堀川小学校	知っている ようで知らない考古学の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土器等を身近に感じながら、モノから歴史を考える‘考古学’の世界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 2時限 85名
7月1日 (火)	鎌倉市立第一小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 105名
7月3日 (木)	寒川町立南小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 3時限 95名
7月4日 (金)	川崎市立東小田小学校	知っている ようで知らない考古学の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土器等を身近に感じながら、モノから歴史を考える‘考古学’の世界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 2時限 58名
7月4日 (金)	小田原市立早川小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 22名
7月8日 (火)	厚木市立戸田小学校	江戸時代の浮世絵を学ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、題材、浮世絵師の魅力と地域ゆかりの浮世絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 1時限 48名
7月11日 (金)	横須賀市立神明小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など日本の開国過程や幕末明治期の異文化交流について紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	小6 3時限 89名
7月14日 (月)	横須賀市立大塚台小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 70名
7月14日 (月)	横須賀市立富士見小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 30名
7月15日 (火)	藤沢市立富士見台小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 130名
8月25日 (月)	神奈川県立霧が丘高校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など日本の開国過程や幕末明治期の異文化交流について紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	高1～3 1時限 35名
9月2日 (火)	横浜市立西富岡小学校	鎌倉大仏をもっと知る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際に体験することにより、仏像のかたちをわかりやすく紹介した。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 97名

9月2日 (火)	神奈川県 立保土ケ 谷高校	知っている ようで知ら ない考古学 の世界	考古学の世界におけるフィール ドワークの意義や考え方、方法 について紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	高2 2時限 27名
9月3日 (水)	横須賀市 立汐入小 学校	日本の開国 と異文化交 流	ペリー来航、横浜開港など日本 の開国過程や幕末明治期の異文 化交流について紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	小6 1時限 15名
9月9日 (火)	箱根町立 湯本小学 校	中世・近世 の絵画の見 方	曼荼羅図から絵巻など中世の絵 画の基礎的な鑑賞方法や描かれ た意味、背景などについて紹介 した。	任期付学芸員 樋口 美咲	小6 1時限 8名
9月11日 (木)	鎌倉市立 御成小学 校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 3時限 74名
9月16日 (火)	鎌倉市立 腰越小学 校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 75名
9月25日 (木)	厚木市立 上依知小 学校	絵図で見る 江戸時代	江戸時代の武蔵国相模国絵図な ど地域が描かれた絵図を見なが ら、今も残る寺社や石物などを 通じて地域の歴史を紹介した。	非常勤学芸員 根本 佐智子	小6 1時限 50名
9月30日 (火)	川崎市立 宮前小学 校	旅のよそお いといかな がわの名所	江戸時代の旅の道具を通じて、 当時の人々の旅の行き先や旅の 仕方などを紹介した。	学芸員 寺西 明子	小6 2時限 140名
10月1日 (水)	厚木市立 飯山小学 校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、浮世絵師の魅力と地域ゆ かりの浮世絵と併せ学芸員の仕 事も紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 1時限 30名
10月1日 (水)	横浜市立 舞岡小学 校	鎧兜の移り 変わりから 見る歴史	講師が鎧を着用して、平安後期 から戦国時代にかけての鎧兜の 変遷や作り方、社会の変化につ いて紹介した。	学芸員 梯 弘人	小6 2時限 55名
10月2日 (木)	川崎市立 南河原小 学校	知っている ようで知ら ない考古学 の世界	縄文土器の縄文原体の作成や土 器等を身近に感じながら、モノ から歴史を考える‘考古学’の世 界を紹介した。	学芸員 佐藤 兼理	小6 1時限 89名
10月8日 (水)	川崎市立 御幸小学 校	旅のよそお いといかな がわの名所	江戸時代の旅の道具を通じて、 当時の人々の旅の行き先や旅の 仕方などを紹介した。	学芸員 寺西 明子	小6 2時限 155名
10月10日 (金)	横浜隼人 高校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 浮世絵師の魅力ほか学校や横浜 ゆかりの資料を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	高3 2時限 26名
10月22日 (水)	逗子市立 久木小学 校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 109名

10月27日 (月)	寒川町立 一之宮小 学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、浮世絵師の魅力と地域ゆ かりの浮世絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 2時限 64名
10月28日 (火)	茅ヶ崎市 立鶴嶺中 学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く 様々な職種の職員や学芸員の仕 事について実体験に基づき紹介 した。	学芸員 鈴木 愛乃	中2 1時限 240名
10月29日 (水)	秦野市立 渋沢小学 校	浮世絵と明 治時代の印 刷	江戸時代のメディアとしての浮 世絵や明治時代以降のお札の印 刷技術などを紹介した。	非常勤学芸員 山口 希	小6 1時限 126名
10月29日 (水)	平塚市立 なでしこ 小学校	かながわの 地質と歴史 を学ぶ	学校周辺の岩石・石材を素材に した地質の特徴と、その地の石 に纏わる人間の営みを地域の歴 史として一体的に紹介した。	学芸部長 丹治 雄一 生命の星・ 地球博物館 企画普及課長 山下 浩之 学芸部 主任学芸員 田口 公則	小6 2時限 60名
10月30日 (木)	藤沢市立 御所見小 学校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 2時限 65名
11月5日 (水)	小田原市 立町田小 学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、広重など浮世絵師の魅力 と地域ゆかりの浮世絵を紹介し た。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 2時限 40名
11月11日 (火)	開成町立 文命中学 校	博物館・学 芸員の仕事	地域ゆかりの浮世絵を通じて浮 世絵の魅力を紹介するととも に、浮世絵の魅力を紹介するワ ークショップを通じて学芸員の 仕事を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	中2 3時限 172名
12月8日 (月)	海老名市 立杉久保 小学校	鎌倉大仏を もっと知 る！	鎌倉大仏の手や足、服装を実際 に体験することにより、仏像の かたちをわかりやすく紹介し た。	主任学芸員 神野 祐太	小6 1時限 97名
12月9日 (火)	横浜市立 豊田小学 校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用され ていた‘食’に纏わる道具の変遷 やそれに伴う生活の変化につい て紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小3 1時限 90名
12月17日 (水)	厚木市立 北小学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、広重など浮世絵師の魅力 と地域ゆかりの浮世絵を紹介し た。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 2時限 70名
1月15日 (火)	神奈川県 立横浜南 支援学校 小学校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史や木版画の技術、 題材、歌麿、北斎、広重など浮世 絵師の魅力と地域ゆかりの浮世 絵を紹介した。	企画普及課長 桑山 童奈	特支5・6 1時限 6名

1月16日 (金)	神奈川県 立横浜南 支援学校 小学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用されていた‘食’に纏わる道具の変遷やそれに伴う生活の変化について紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	特支3 1時限 5名
1月16日 (金)	座間市立 相武台東 小学校	昔の台所と 食べ物	当館展示室内の古民家の台所の様子や昔の食べ物の複製資料の画像を通じて、昔と今の食生活の変化を紹介した。	非常勤学芸員 三浦 麻緒	小3 3時限 100名
1月16日 (金)	横須賀市 立常葉中 学校	中世武士の 鎌倉	絵巻物や生徒に身近なアニメーション等をモチーフに、中世の武士が果たした役割について紹介した。	学芸員 渡邊 浩貴	中1 2時限 115名
1月16日 (金)	横須賀市 立諏訪小 学校	身近な地域 の現代史	学校周辺の空中写真や、昭和初期に描かれた‘神奈川県鳥瞰図’の複製などを見ながら、地域の現代史を紹介した。	学芸員 武田 周一郎	小6 1時限 62名
1月19日 (月)	厚木市立 北小学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用されていた‘食’に纏わる道具の変遷やそれに伴う生活の変化について紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小3 2時限 57名
1月20日 (火)	海老名市 立今泉小 学校	昔の台所と 食べ物	当館展示室内の古民家の台所の様子や昔の食べ物の複製資料の画像を通じて、昔と今の食生活の変化を紹介した。	非常勤学芸員 三浦 麻緒	小3 2時限 194名
1月21日 (水)	厚木市立 依知小学 校	中世武士の 鎌倉	刀や弓などの実際の扱い方を通じ、生徒に身近なアニメーションで描かれるものと異なる中世武士による合戦について紹介した。	学芸員 渡邊 浩貴	小6 1時限 55名
1月22日 (木)	海老名市 立社家小 学校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用されていた‘食’に纏わる道具の変遷やそれに伴う生活の変化について紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小3 3時限 80名
1月26日 (月)	綾瀬市立 落合小学 校	昔の道具を 調べよう	高度経済成長期以前に使用されていた‘食’に纏わる道具の変遷やそれに伴う生活の変化について紹介した。	主任学芸員 新井 裕美	小3 1時限 42名
合 計					81時限 3,914名

(カ) 大学団体利用

令和7年度は休館のため実績なし。例年では、授業内容等の専門性を高めるため、常設展または特別展等の見学及び解説を行っている。

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、情報システム端末（デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことができる。

職員1名以上が常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している。（図書、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載）

ア 閲覧用座席数

16席、来館者用情報システム端末：2台

イ ミュージアムライブラリー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
各種照会（特別利用及びレファレンス）	171	108	107	130	125	115	132	109	157	144	104	97	1,499

*設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度中は①特別利用取扱い件数、②電話やメール等によるレファレンスを集計

(7) 普及印刷物

ア 図録等

設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は展示事業を行わず、図録も作成せず。

イ 広報印刷物

- ・催し物のご案内（2025年4月～2026年3月）
- ・催し物のご案内（2026年1月～3月）
- ・「ミュージアム・ミッション2025」マップ
- ・「けんぱくトークフェス」チラシ、配布資料

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.31 No.1 通巻229号 令和7年5月26日（2,000部）
『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.31 No.2 通巻230号 令和7年10月20日（2,000部）
『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.31 No.3 通巻231号 令和8年2月17日（2,000部）

(8) ボランティアの活動

博物館ボランティアについては、展示解説ボランティアの活動を平成9年度から開始し、平成13年度から活動年数を最長5年とした。また、写真職が撮影したフィルムをスキャンしデジタル化する作業に従事するボランティアもいた。平成22年度からは行事補助ボランティアを導入して活動を拡大した。

令和7年度のボランティア人数は91名（令和8年3月末日現在）である（詳細は下記「(イ) ボランティア数」参照）。なお、令和6年度・7年度は工事休館の影響で活動機会が少なかったため、一律で登録しているボランティアの任期を延長した。また、令和7年度は休館中のため新規ボランティアの募集を実施しなかったが、令和8年度の再開館から活動する26期ボランティアの募集を令和8年3月9日（月）より開始した。

ア 活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、休館中のため看視や展示解説等の通常の活動は行わなかったが、各曜日班で自主的な館外学習・勉強会を企画・実施した。

行事補助ボランティアは、催し物の受付・案内の補助、子ども向けワークショップ等では工作などの指導補助を行った。

また、ボランティア会全体としては、幹事会（各曜日班から2名の幹事を選出）を組織し、3か月に1回程度、館側の担当者とは様々な調整や情報・意見交換を行ったほか、年2回の『ボランティアニュース』の編集・発行や、自主的な館外研修の企画等を行った。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	延べ活動人数(名)
4	2	4
5	2	4
6	2	4
7	3	6
8	1	2
9	2	6
10	4	5
11	2	4
12	3	6
1	2	4
2	3	5
3	3	9
合計	29	59

※ 設備等改修工事により令和7年1月から休館のため、令和7年度は「展示解説ボランティア」の館内活動なし。「行事補助ボランティア」の活動のみ集計している。

(イ) ボランティア数(令和8年3月末現在)

展示解説ボランティア 計70名

火曜班：12名、水曜班：11名、木曜班：10名、金曜班：12名、土曜班：12名、日曜班：13名

行事補助ボランティア 計21名

年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	1	1
30	0	1	1
40	2	3	5
50	1	5	6
60	15	13	28
70	34	13	47
80	2	1	3
合計	54	37	91
平均年齢	70.87歳	63.68歳	67.95歳

イ 専門研修

翌年度に活動を開始するボランティアを対象として、展示解説に必要な常設展示に関する知識や資料の保存、教育普及活動について解説する専門研修は、新規募集を行わなかったため実施しなかった。

ウ その他の研修

(ア) 特別展勉強会

特別展の開催にあたり、看視活動・解説に備えるため実施する特別展勉強会は、休館で特別展を開催しなかったため実施しなかった。

(イ) フォローアップ研修

常設展示等解説のフォローアップとして、例年、常設展等からテーマを決めて研修講座を実施している。令和7年度は休館中のため、下記の通り例年より回数を増やして実施した。

第1回 テーマ：明治の横浜・東京の輸出陶磁器制作 宮川香山の眞葛焼、井上良斎の隅田焼を中心に

日時：5月10日（土）13:30～15:00 講師：非常勤学芸員 小川 咲良 会場：神奈川県立公文書館

第2回 テーマ：かながわの民俗を振り返る

日時：7月20日（日）13:30～15:00 講師：主任学芸員 新井 裕美 会場：神奈川近代文学館

第3回 テーマ：神奈川県立歴史博物館の北条家関係資料について

日時：11月15日（土）13:15～14:45 講師：学芸員 梯 弘人 会場：日本丸メモリアルパーク訓練センター

第4回 テーマ：神奈川県立歴史博物館の戦争資料

日時：12月20日（土）13:45～15:15 講師：学芸員 武田 周一郎 会場：波止場会館

第5回 テーマ：当館所蔵の出版絵図に見る近世絵図資料の系譜

日時：2月14日（土）13:45～15:15 講師：学芸員 寺西 明子 会場：波止場会館

(ウ) 館長講話

テーマ：博物館を知ろう！

日時：3月21日（土）14:15～15:45

講師：館長 望月 一樹

(9) 博物館実習生の受入れ

令和7年度は休館のため実績なし。例年では、「神奈川県立歴史博物館 博物館実習生受入要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れている。

ア 見学実習

令和7年度は休館のため実績なし。例年では、当館の概要（歴史・施設・組織・展示や事業概要など）について学芸員が説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行っている。

イ 実務実習

令和7年度は休館のため実績なし。例年では、博物館運営に関わる業務や教育普及事業、博物館の資料の取扱いや整理の方法などについて学ぶ全6日間の実習を行っている。

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔 昭和 41 年 10 月 7 日 〕
条例第 43 号

最終改正 平成 28 年 10 月 21 日条例第 77 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考 2 に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者という。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）

（略）

附 則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同 200円	同 150円
	学生(65歳以上の者を除く。)		
	65歳以上の者	同 100円	同 100円
	高 校 生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

最終改正 令和5年3月31日教育委員会規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第1項の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失（損傷）届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

(略)

附 則（令和5年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

(2) 利用案内

- 1 名 称：神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
- 2 所 在 地：横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
- 3 電 話：045-201-0926(代表)
- 4 F A X：045-201-7364
- 5 ホームページ：<https://ch.kanagawa-museum.jp/>
- 6 交 通：みなとみらい線「馬車道駅」3・5番出口から徒歩1分、
横浜市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分、JR「桜木町駅」新南口（ICカード専用）
から徒歩5分
- 7 休 館 日：月曜日（ただし、祝日の場合は開館）、資料整理休館日、年末年始
- 8 観 覧 料：○常設展
 - ・20歳以上(学生を除く)：300円(250円)（ ）内は20名以上の団体
 - ・20歳未満及び学生：200円(150円)
 - ・高校生及び65歳以上：100円(100円)
 - ・中学生以下及び障害者手帳等をお持ちの方は無料○特別展
 - ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。○コレクション展
 - ・無料
- 9 団 体 見 学：事前にご連絡ください。
- 10 地 図



神奈川県立歴史博物館年報 令和7年度

令和8(2026)年8月31日

編集・発行 〒231-0006

横浜市

中区南仲通5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan
Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History
(2025.4~2026.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History
Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN